



豪州の農畜産物需給見通し

2014年6月27日

独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 国際調査グループ
伊藤 久美

(参考) 2014年5月末日TTSレート：1豪ドル=96.73円、1米ドル=102.66円
豪州の年度は、文中で断りのない限り、7月～翌6月

本日の報告内容

日本における豪州産牛肉・乳製品の位置付け

牛肉の需給見通し

乳製品の需給見通し

穀物の需給見通し

まとめ

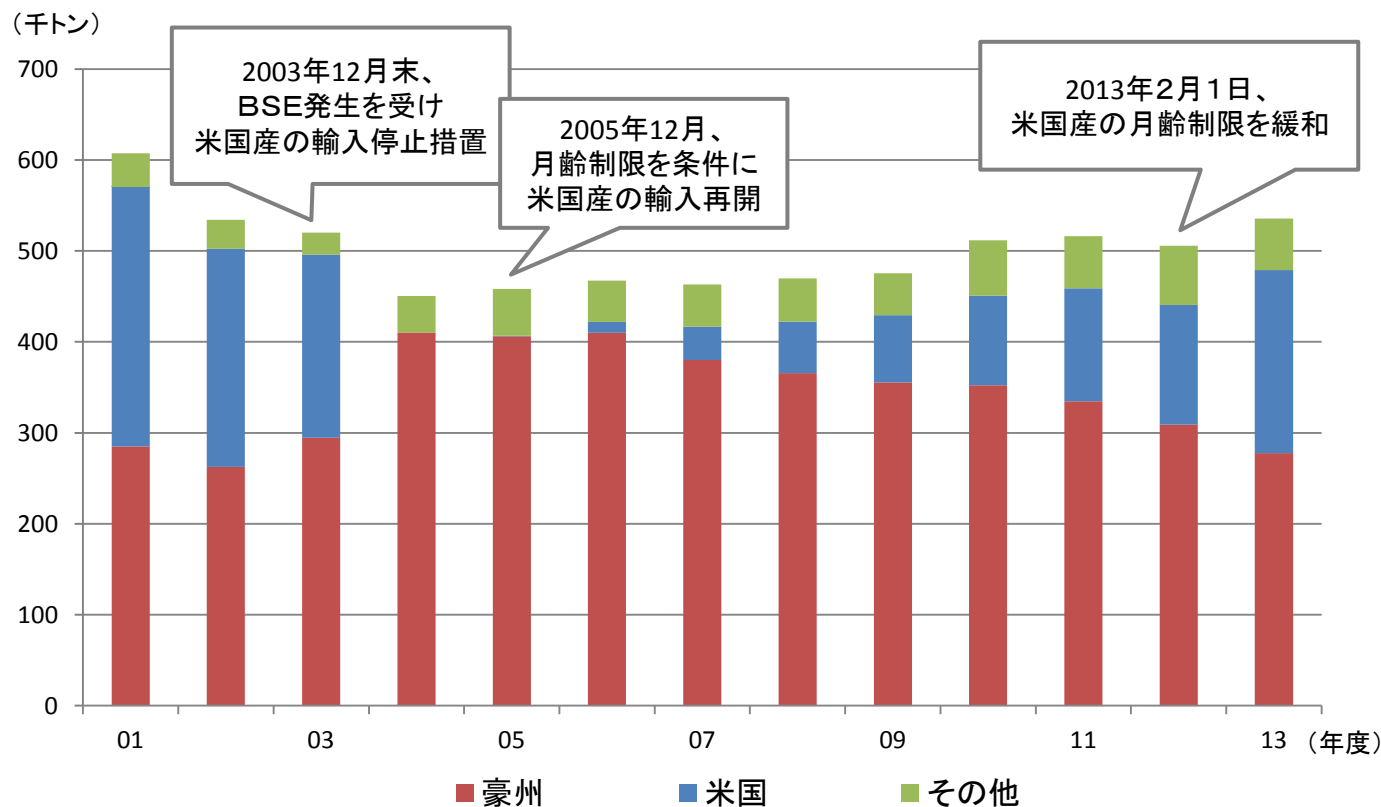
豪州農業資源科学経済局（ABARES）とは...

豪州連邦政府の農漁林業省（DAFF）の経済科学研究部局。農畜産物の需給見通しを定期的に公表し、毎年3月に農畜産業需給観測会議を開催。

日本における豪州産牛肉の位置付け

- 豪州産牛肉は、米国でのBSE発生により日本市場におけるシェアを高めたが、米国産の増加とともに減少傾向で推移
- 2013年度のシェアは52%

日本の牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：年度は4月～翌3月

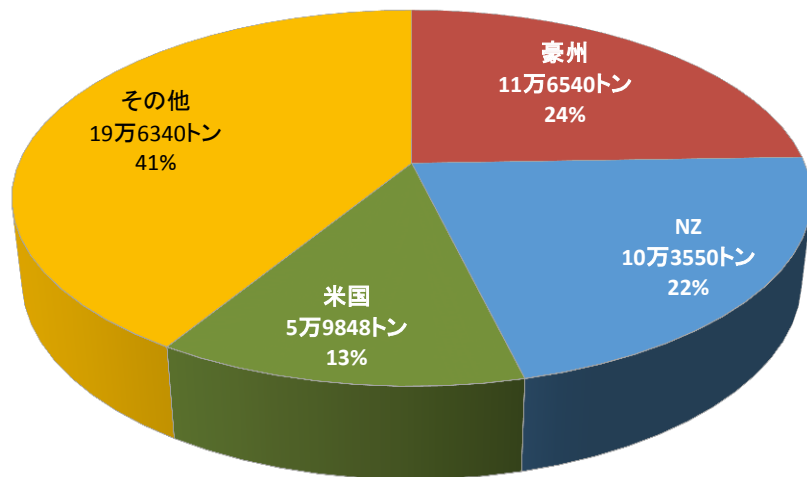
注2：部分肉ベース

注3：煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む

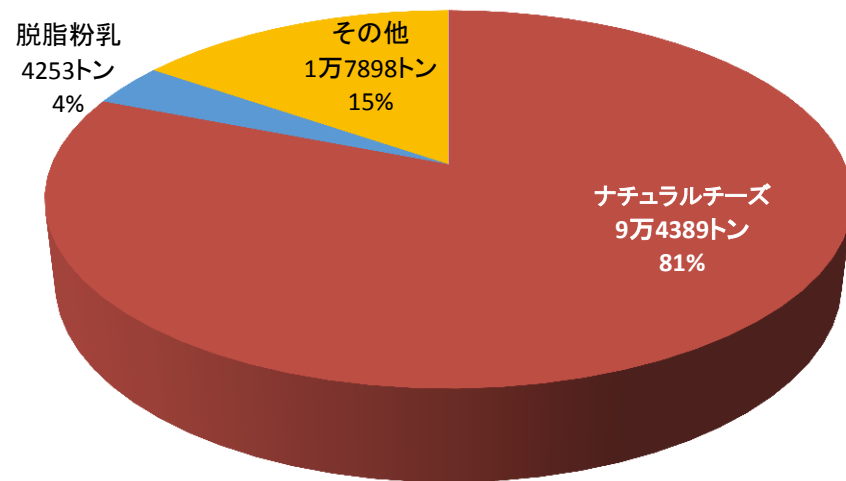
日本における豪州産乳製品の位置付け

- ・ 豪州は、日本の乳製品輸入数量の第1位、同輸入金額の第2位
- ・ 主要輸入品目は、ナチュラルチーズ

日本の乳製品輸入における各国のシェア
(2013年)



豪州産乳製品の品目別シェア
(2013年)



牛肉の需給見通し

豪州の牛肉産業の概要

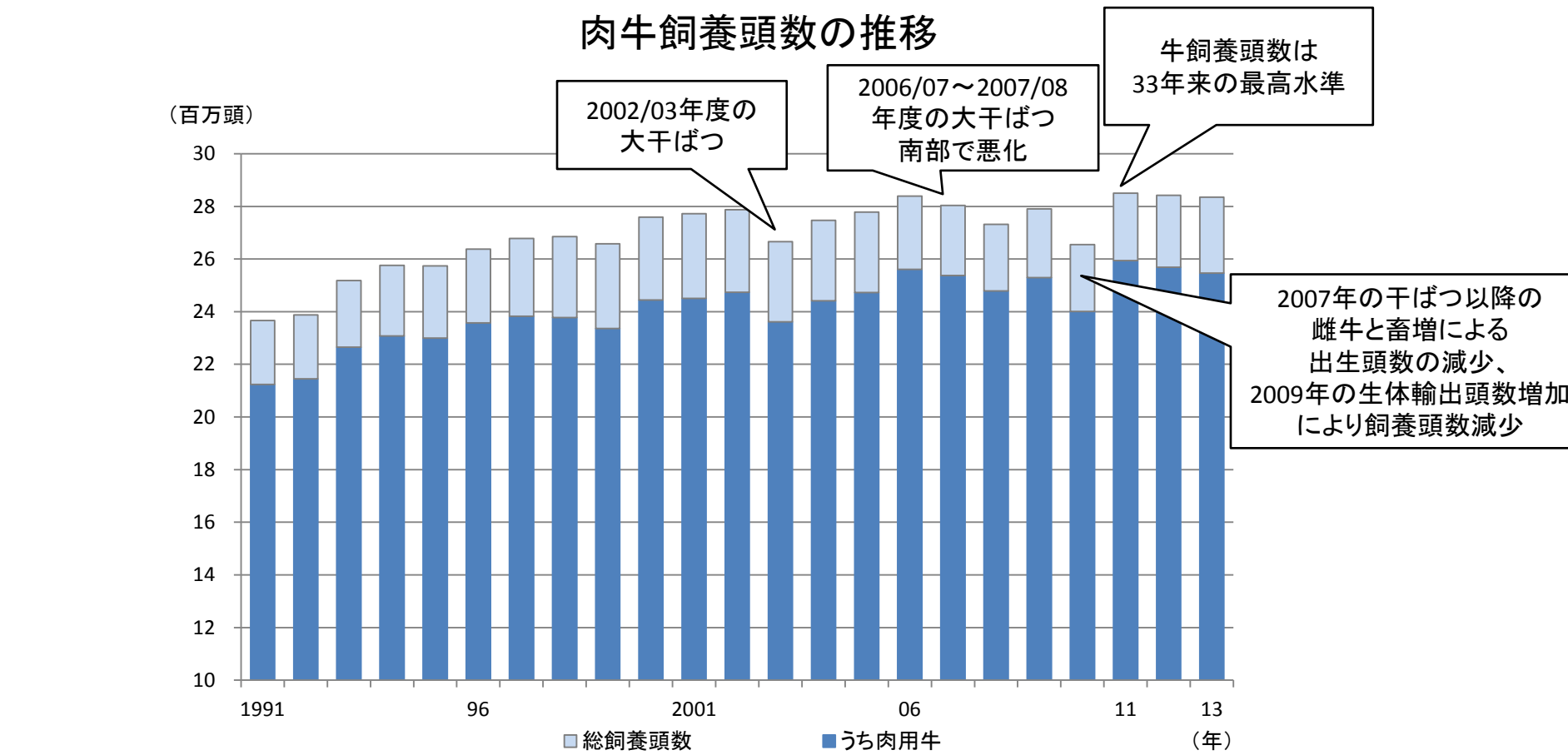
- 牛肉生産量は日本の4.3倍（部分肉ベース）
- 牛肉生産量の3割強が国内消費、残りは輸出に仕向け

区 分	豪 州	（日本との比較）	日 本
肉牛農家戸数	3万2530戸	(2分の1)	6万1300戸
肉牛飼養頭数	2547万頭 (2835万頭 乳牛含む)	(9.6倍) (6.9倍)	264万2000頭 (406万5000頭 乳牛含む)
飼養形態	放牧		舎飼い
と畜頭数	781万1100頭	(6.6倍)	119万2000頭
平均枝肉重量	282キログラム/頭	(0.6倍)	434.9キログラム/頭
生産量	220万6000トン(枝肉重量ベース)	(4.3倍)	36万トン(部分肉ベース)
輸入量	-		50万6000トン(部分肉ベース)
輸出量	101万4000トン(船積重量ベース)	(1073倍)	945トン(部分肉ベース)
消費量	74万4000トン(枝肉重量ベース)	(0.6倍)	85万9000トン
牛肉の1人当たり年間消費量	32.2キログラム	(5.5倍)	5.9キログラム
食肉の1人当たり年間消費量	112.4キログラム	(3.7倍)	30キログラム

資料：ABARES、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）、農林水産省
注1：日本の肉牛農家戸数および肉牛飼養頭数は2013年2月1日現在、と畜頭数等は平成24年度（1人当たり年間消費量は概算値）
平均枝肉重量は枝肉生産量及びと畜頭数から算出
注2：豪州の肉牛農家戸数は2009/10～2011/12年度（7月～翌6月）における各年度6月末時点の平均、
肉牛飼養頭数は2013年6月末時点、と畜頭数等は2012/13年度、平均枝肉重量及び1人当たり年間消費量は概算値

最近の牛肉産業を巡る状況 – 飼養頭数の推移

- 飼養頭数は干ばつの影響を受け変化
- 2010年以降、気象状況の改善から飼養頭数が増加し、2011年には牛飼養頭数は33年来の最高水準

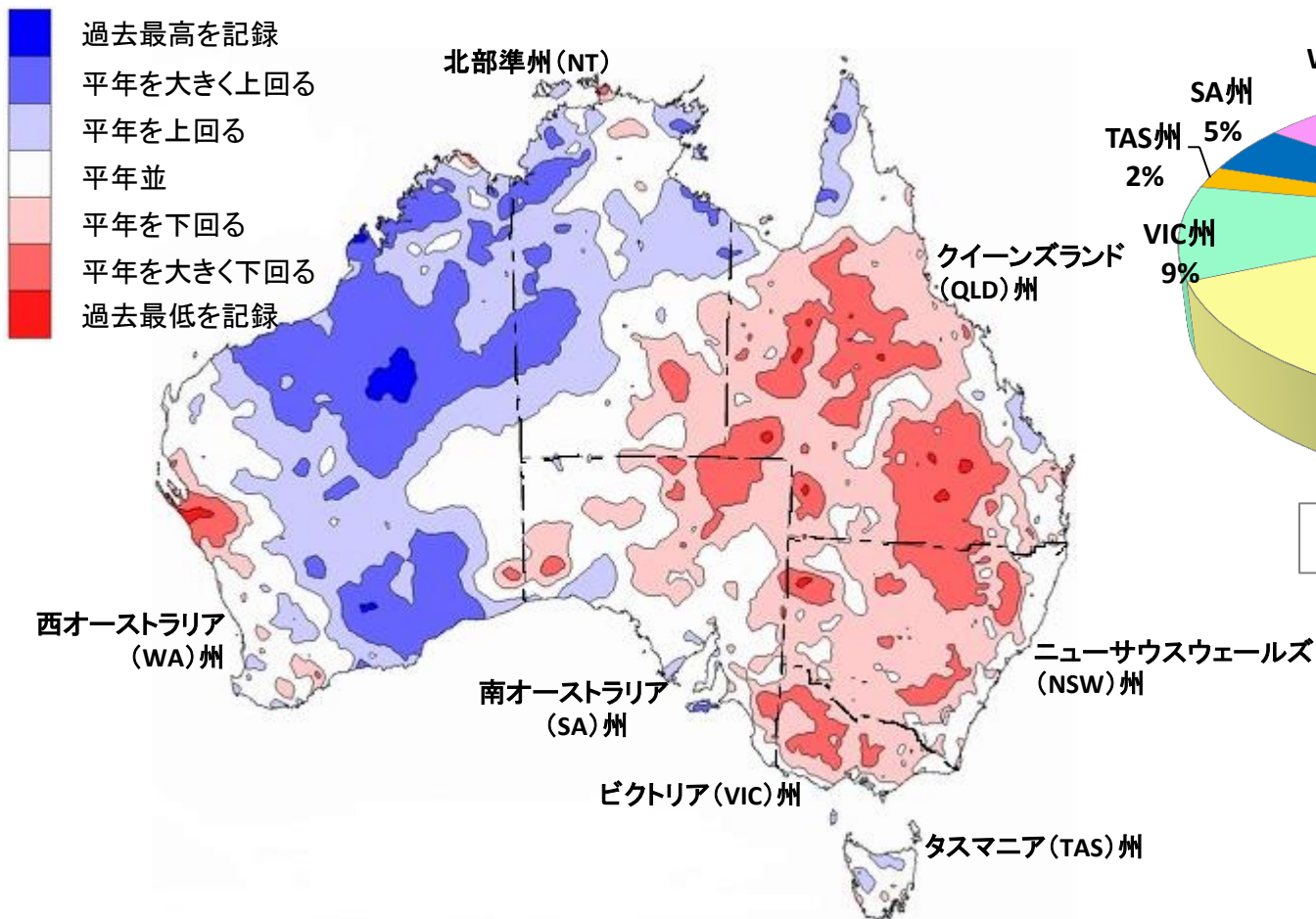


資料：ABARES「Agricultural commodity statistics 2013」
注：各年6月末時点

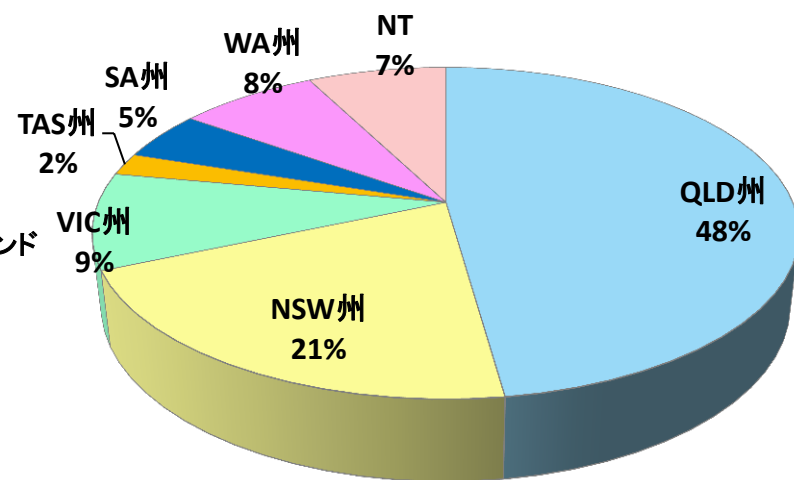
最近の牛肉産業を巡る状況 - 進行する干ばつ

- 2012年後半以降、東部を中心に高温乾燥が進行し、特に肉牛主産地のQLD州で干ばつが長期化

2012年9月～2014年2月の降雨の状況



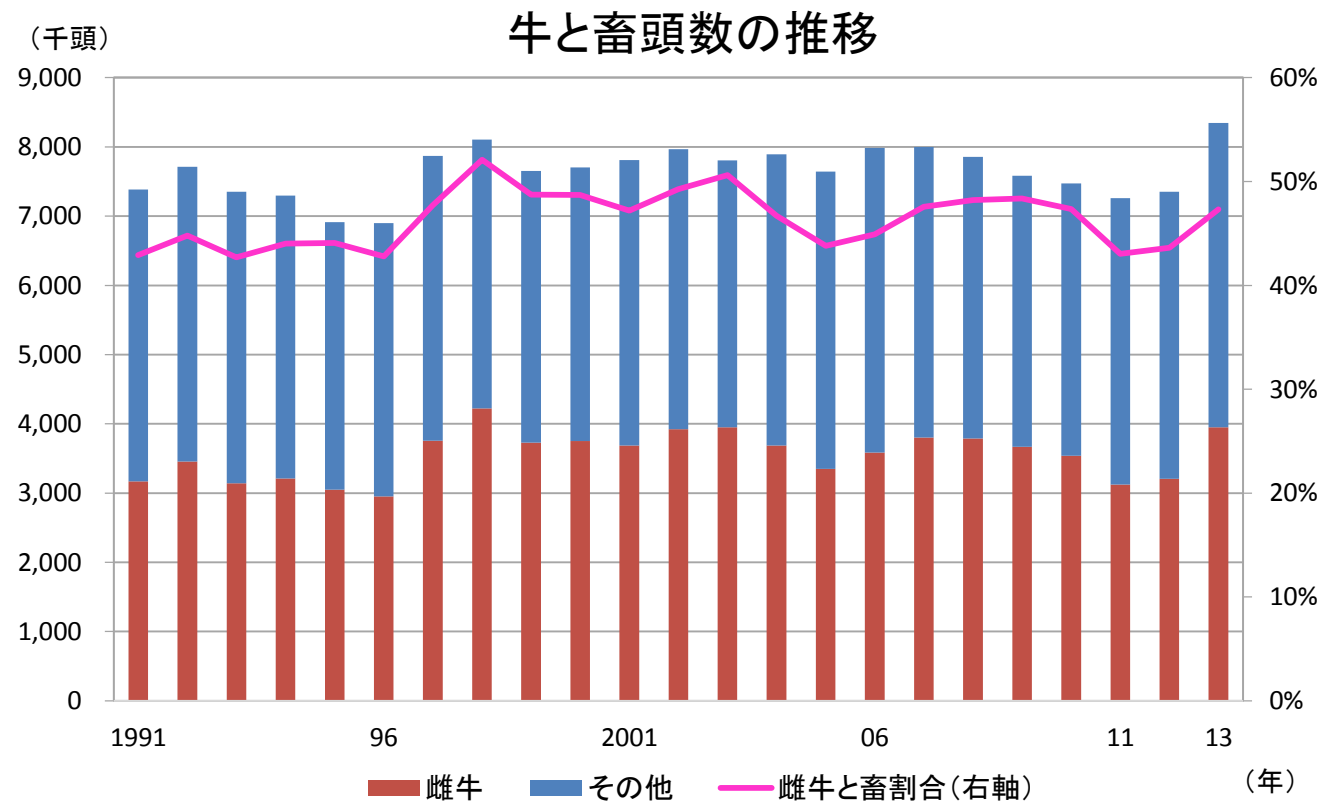
肉牛の州別飼養割合
(2013年6月末時点)



肉牛飼養頭数 2547万頭

最近の牛肉産業を巡る状況 – と畜頭数の増加

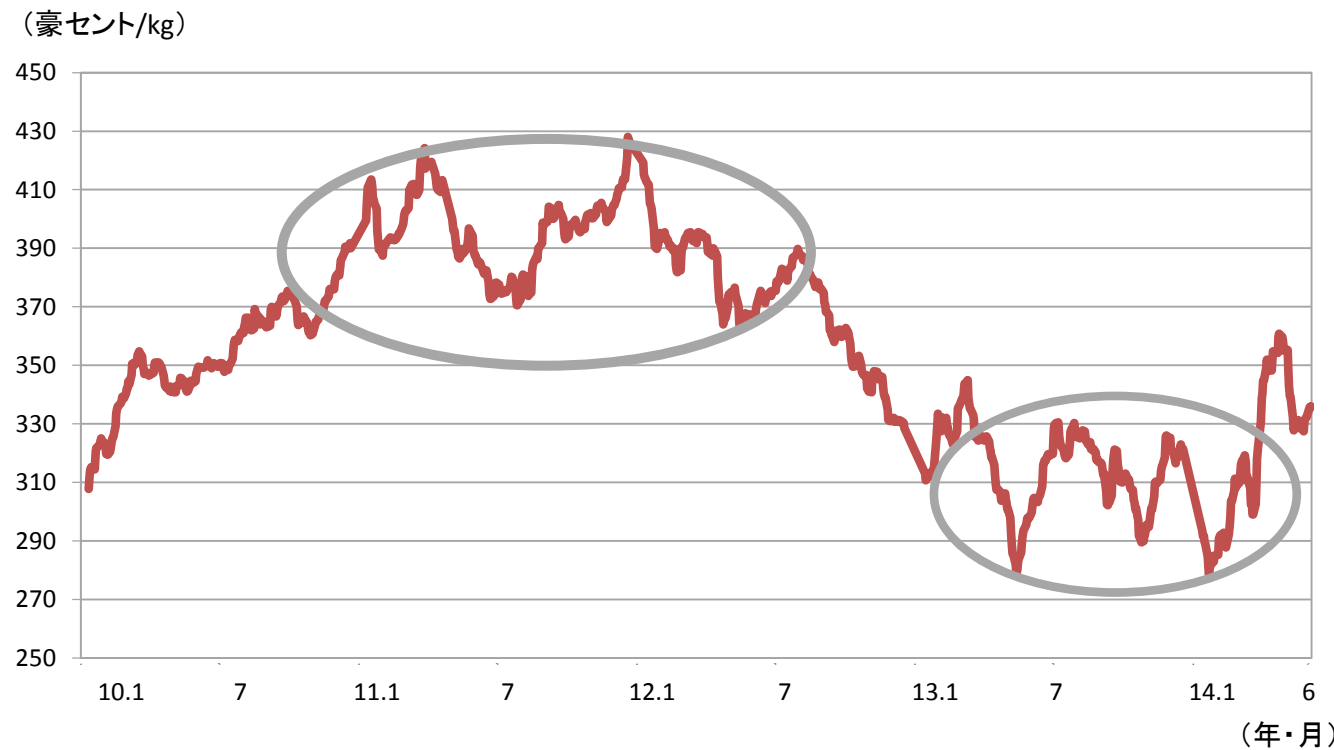
- 放牧環境の悪化による出荷の増加に加え、2012年の飼養頭数が高水準であったことから、2013年に入り、牛と畜頭数は大幅に増加
- 特に、雌牛のと畜割合が上昇
- 2013年牛肉生産量は過去最高に



最近の牛肉産業を巡る状況 – 肉牛価格の下落

- 肉牛の出荷頭数の増加、肥育もと牛需要の低下から、2012年後半以降、若齢牛価格は下落
- 若齢牛価格と相関関係にある肥育牛や経産牛の価格も、同様に下落

東部地区若齢牛指標(EYCI)価格の推移



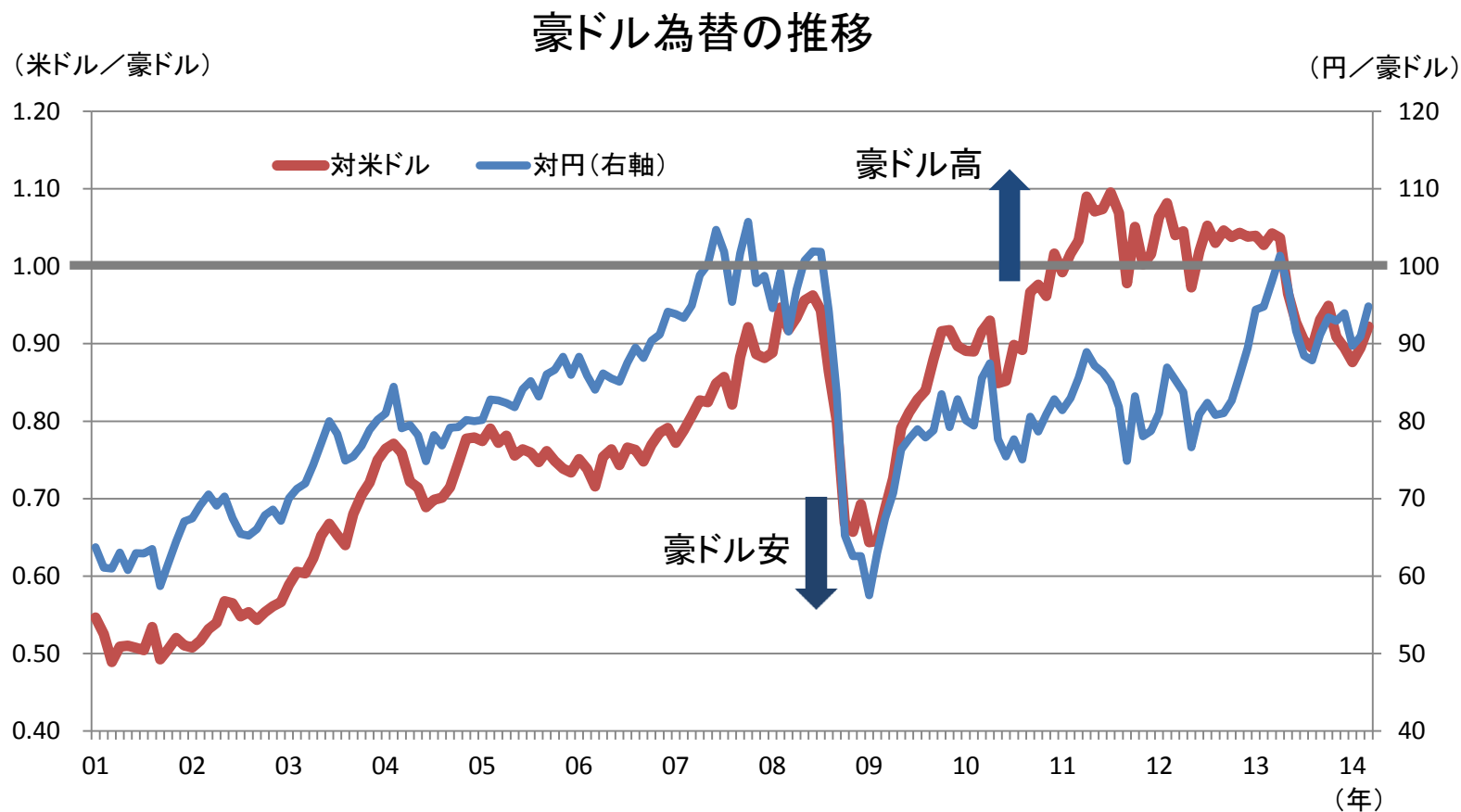
資料 : MLA

注 1 : 枝肉重量ベース

注 2 : EYCI (Eastern young cattle indicator) 価格は東部3州(QLD州、NSW州、VIC州)の主要家畜市場の若齢牛の加重平均取引価格。家畜市場の指標価格となっており、肥育牛や経産牛の家畜市場価格などとも9割近い相関関係にある。

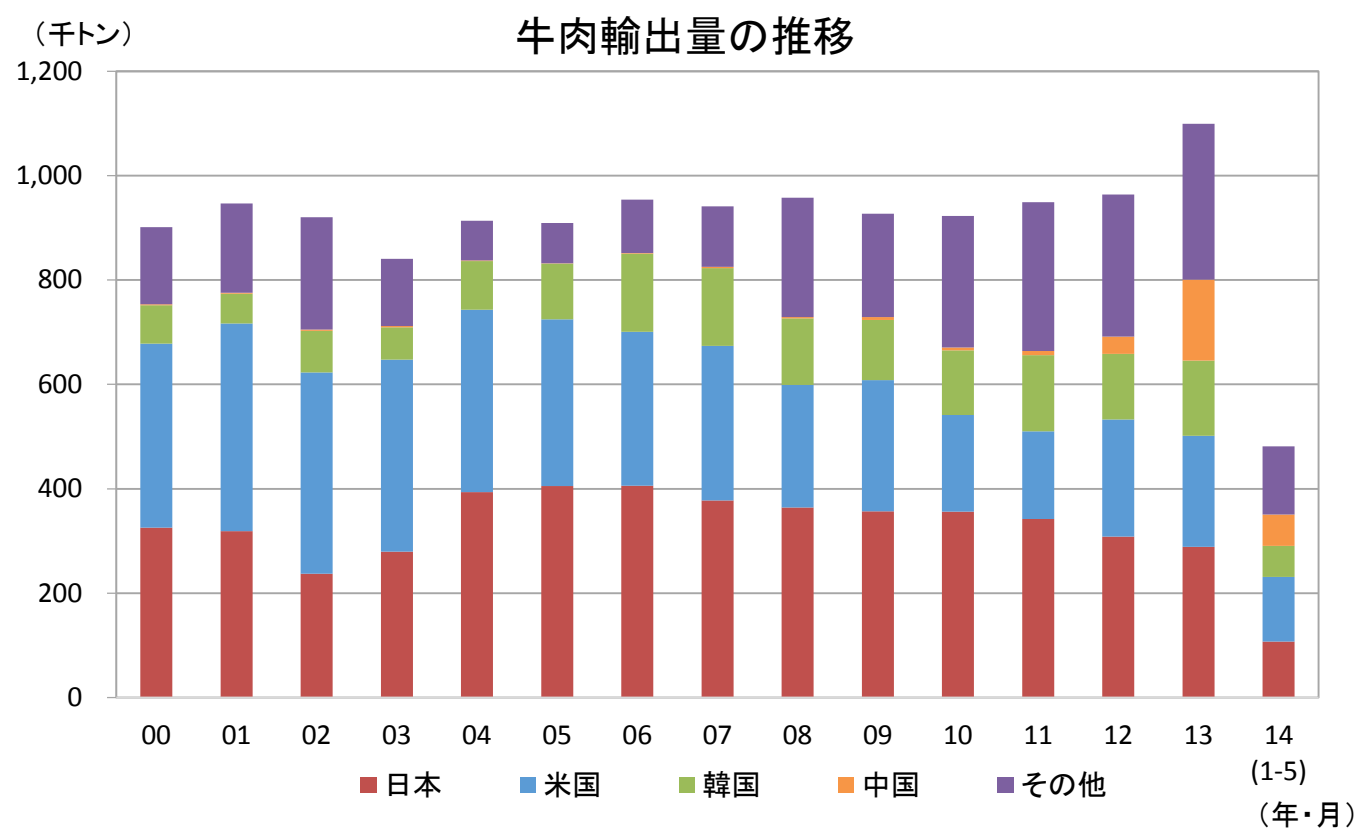
最近の牛肉産業を巡る状況 - 為替の動向

- 豪ドル為替は2011年から2012年にかけて、歴史的な高値水準
- 2013年以降下落し、輸出を後押しに



最近の牛肉産業を巡る状況 – 牛肉輸出動向①

- と畜増に伴う生産量の増加、生体価格の下落、豪ドル安による価格競争力の改善、中国など海外市場からの堅調な需要ーにより、2012年後半以降、牛肉輸出は好調
- 2013年は過去最大の輸出量



資料：豪州農漁林業省（DAFF）
注：船積重量ベース

最近の牛肉産業を巡る状況 - 牛肉輸出動向②

- 日本向けが減少する中、2013年は中国、韓国、インドネシア、サウジアラビア、EU向けなどが大幅増
- 米国向けは2013年後半以降増加し、2014年1～5月は日本向けを抜いて首位

2013年及び2014年(1～5月)の牛肉輸出量
(単位:トン)

	2013年	前年比 (増減率)
輸出量合計	1,099,484	14.1 %
日本	288,794	▲ 6.4 %
米国	212,702	▲ 5.1 %
中国	154,833	370.5 %
韓国	144,364	14.6 %
インドネシア	39,418	45.5 %
台湾	35,703	▲ 6.7 %
サウジアラビア	31,126	493.9 %
CIS	30,317	▲ 13.3 %
フィリピン	26,992	5.0 %
EU	19,809	33.1 %
その他	115,426	▲ 8.5 %

(単位:トン)

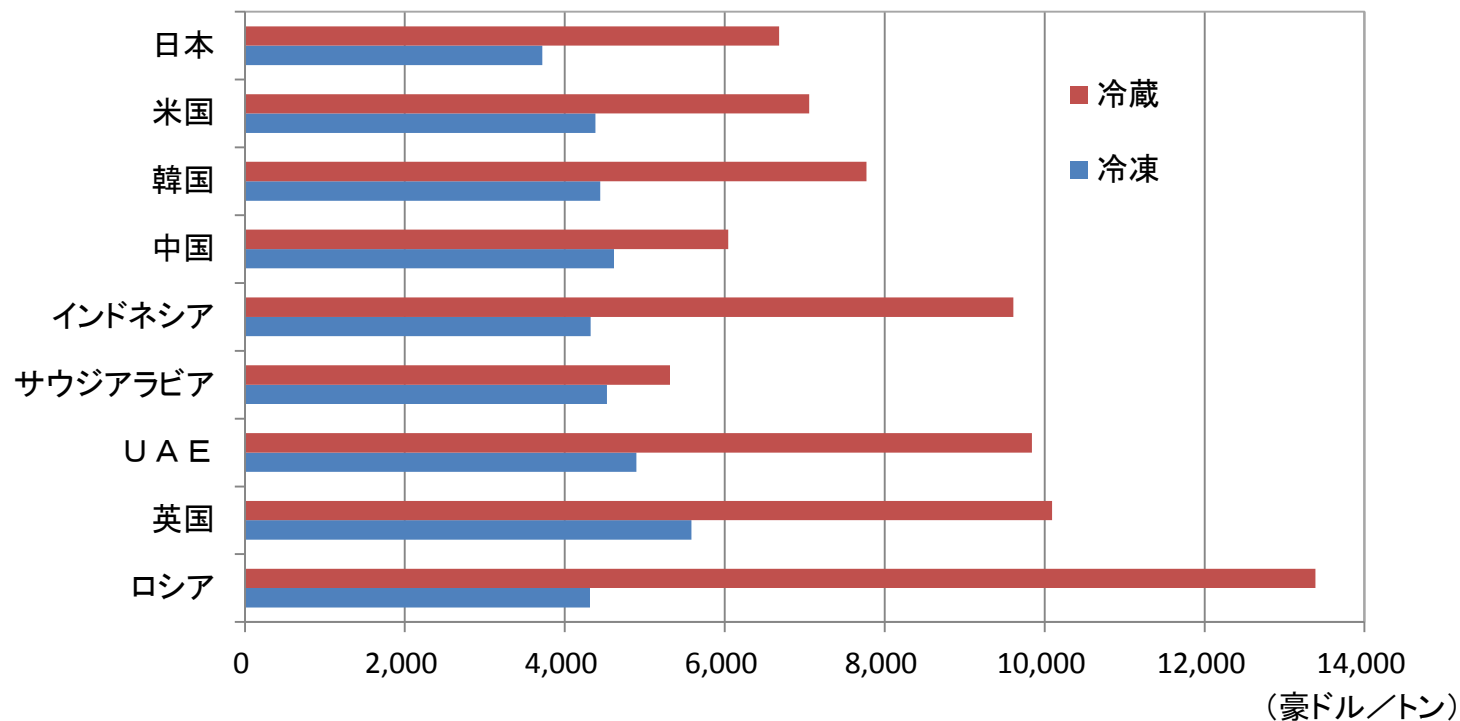
	2014年 1～5月	前年同期比 (増減率)
輸出量合計	481,442	16.9 %
米国	123,609	46.3 %
日本	107,249	▲ 7.4 %
韓国	59,958	18.9 %
中国	59,623	15.2 %
インドネシア	23,679	88.2 %
サウジアラビア	16,149	24.3 %
台湾	15,915	14.3 %
カナダ	12,711	132.2 %
フィリピン	12,280	18.7 %
EU	9,502	35.8 %
その他	40,767	▲ 13.5 %

資料 : DAFF
注 1 : 船積重量ベース
注 2 : CISはロシア他

最近の牛肉産業を巡る状況 - 牛肉輸出動向③

- 豪州産に対する堅調な需要により、他国向けの輸出単価は日本向けをおおむね上回る状況

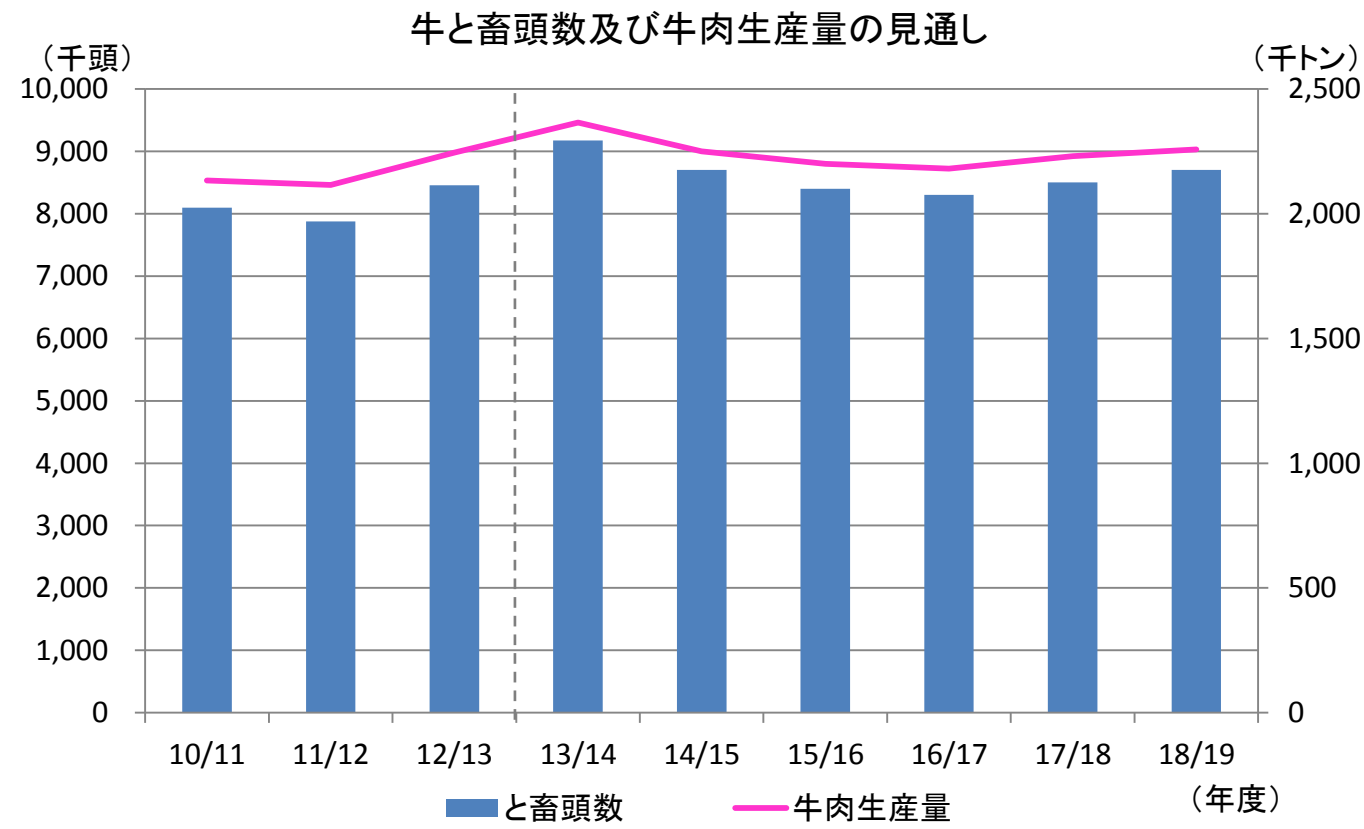
国別牛肉輸出単価の比較(2013年)



資料：ABSをもとに機構集計
注1：HSコード0201、0202
注2：FOB価格

ABARESの牛肉産業見通し – 牛と畜頭数及び牛肉生産量

- 2014/15年度にと畜頭数が減少
- 気象条件の改善による雌牛の保留が見込まれること、2013年の出生頭数の減少によりと畜適期の肉牛の減少が見込まれることが要因
- 2016/17年度以降は増加に転じる見通し

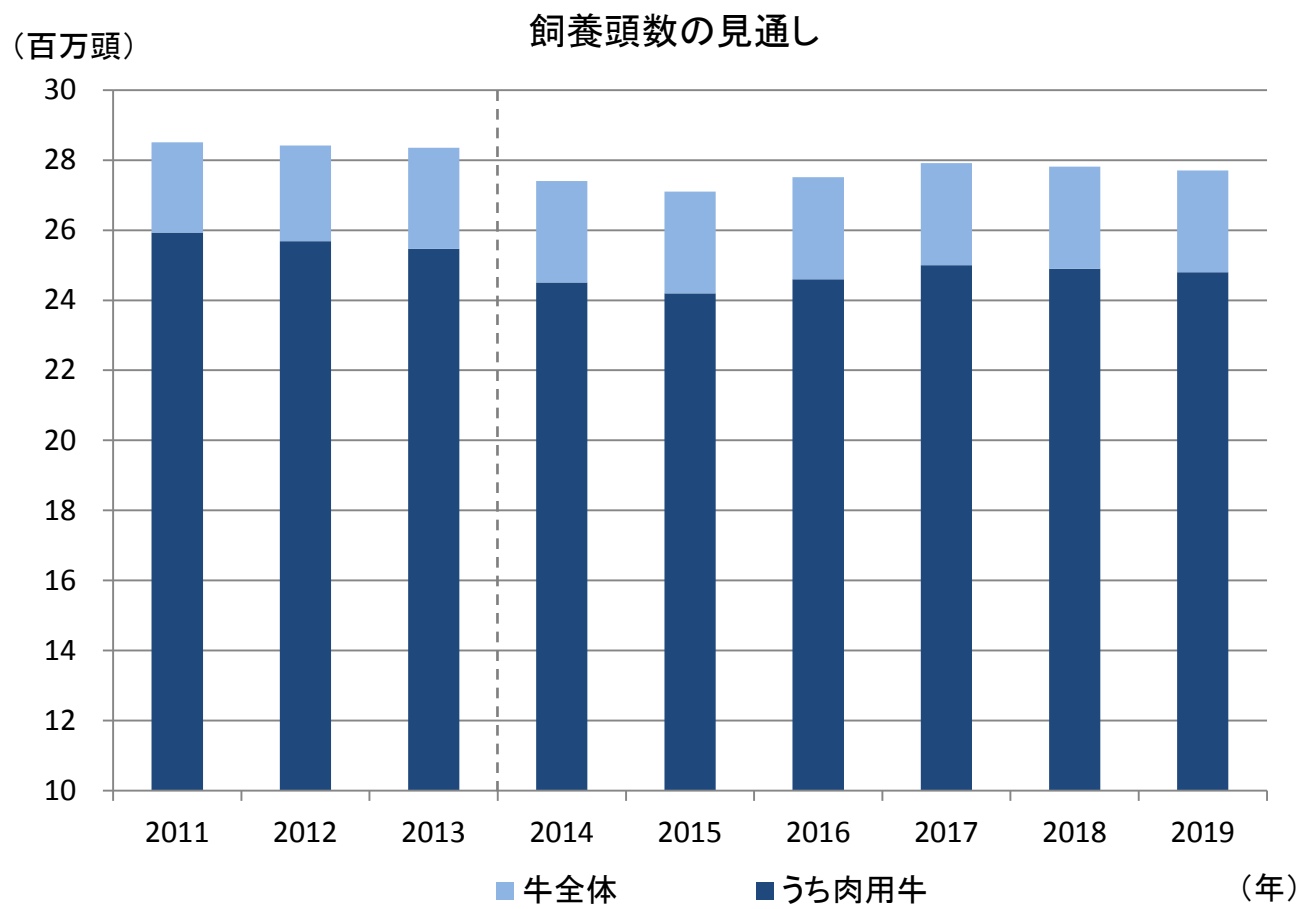


資料 : ABARES 「Agricultural Commodity March 2014」

- 注 1 : 子牛及び子牛肉を含む
- 注 2 : 生産量は枝肉重量ベース
- 注 3 : 2013/14年度以降、予測値

ABARESの牛肉産業見通し – 飼養頭数

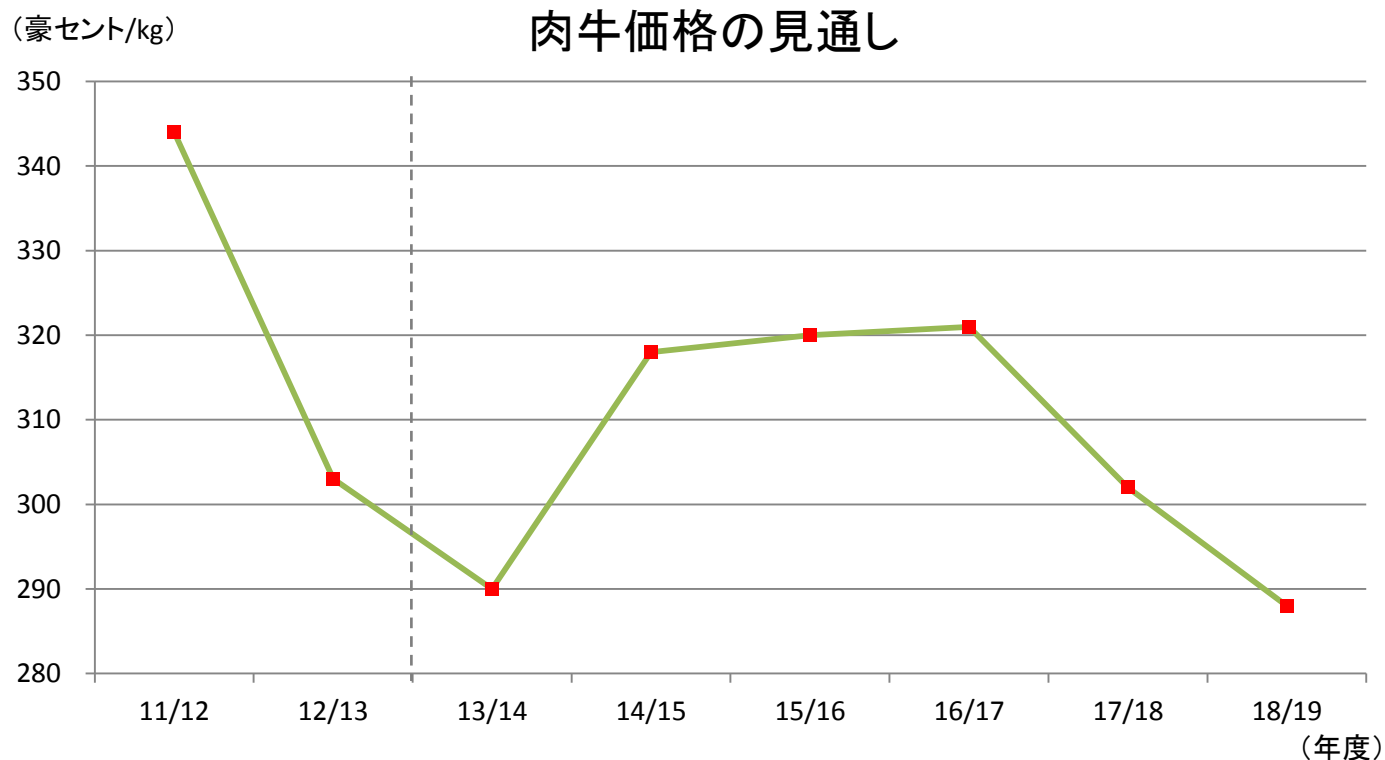
- 2013年の繁殖雌牛を中心としたと畜頭数の増加から、肉牛飼養頭数は2015年まで減少し、その後は増加の見通し



資料 : ABARES 「Agricultural Commodity March 2014」
注 1 : 各年6月末時点
注 2 : 2014年以降は予測値

ABARESの牛肉産業見通し – 肉牛生体価格

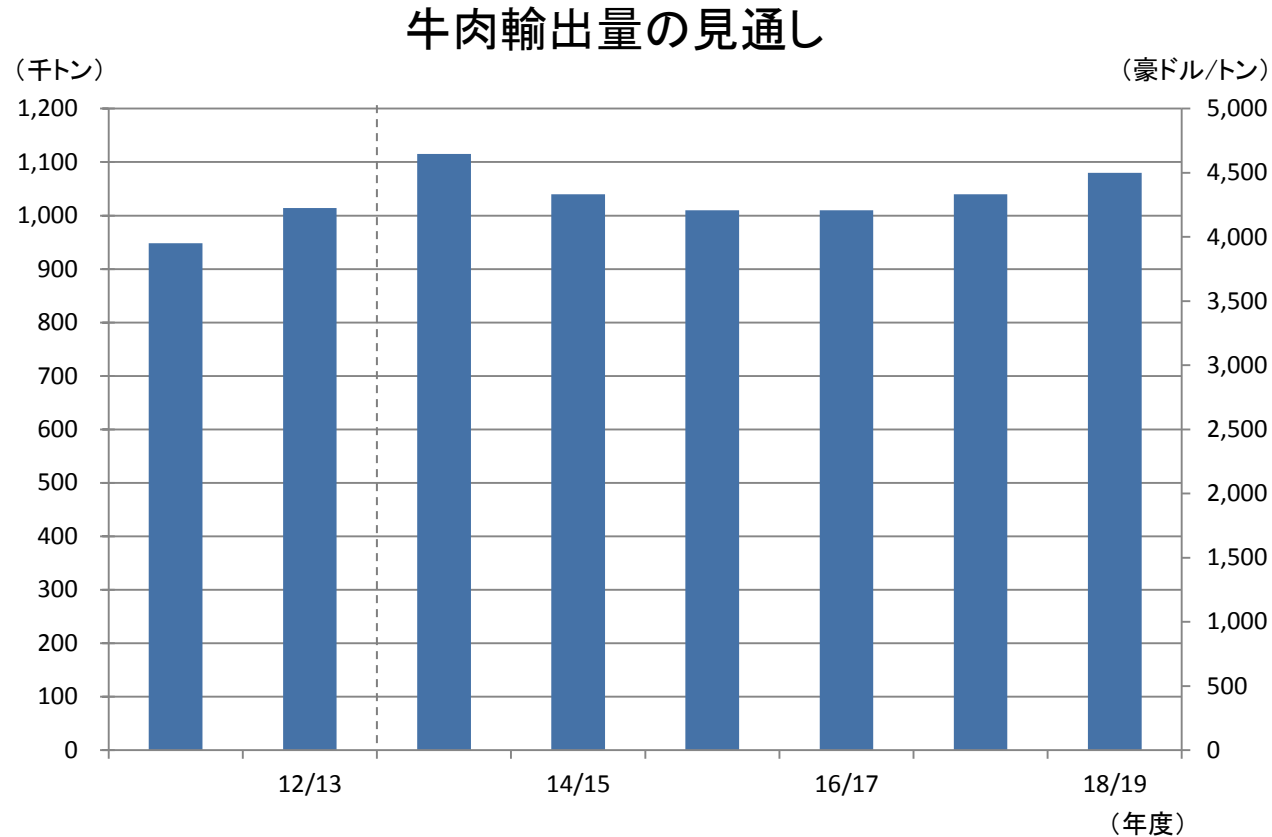
- 2014/15年度以降、肉牛の出荷頭数の減少、肥育もと牛需要の高まりが見込まれ、肉牛の取引価格は上昇
- 2016/17年度まで高値を維持するが、以降はと畜頭数の増加に伴って下落



資料: ABARES 「Agricultural Commodity March 2014」
注1: 家畜市場における肉牛の加重平均取引価格、枝肉重量ベース
注2: 2013/14年度の為替で補正した数値
注3: 2013/14年度以降は予測値

ABARESの牛肉産業見通し - 牛肉輸出量

- と畜頭数の減少に伴い、2015/16年度まで牛肉輸出量は減少傾向で推移
- 中期的には、海外市場からの強い引き合いにより、牛肉輸出量は100万トン台の高水準を維持



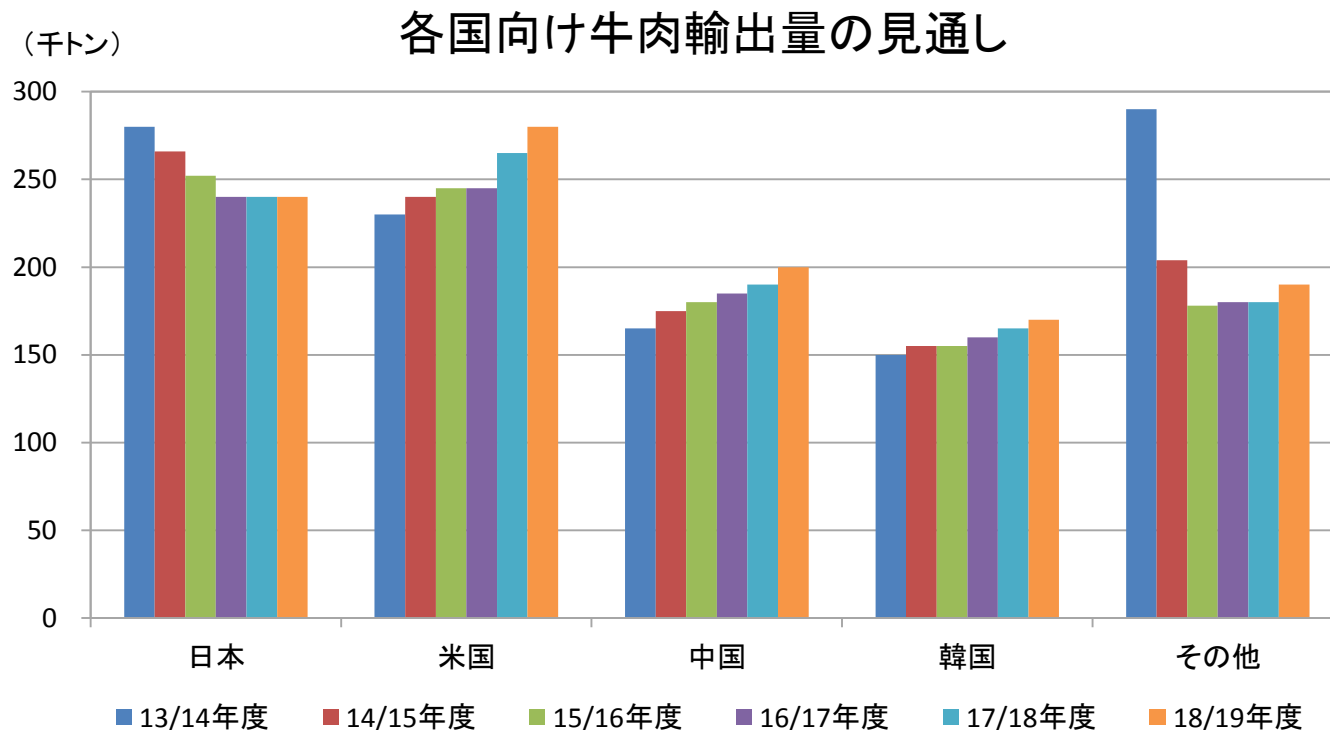
資料：ABARES「Agricultural Commodity March 2014」

注1：船積重量ベース

注2：2013/14年度以降は予測値

ABARESの牛肉産業見通し - 各国向け輸出量

- 日本向けは、米国産との競合の強まりなどから2016/17年度まで減少し、その後横ばい
- 米国向けは増加し、中期的に日本向けを上回る
- 中国向け、韓国向けも増加
- その他向けは、牛肉供給量の減少に伴い減少するが、中期的には増加



資料：ABARES「Agricultural Commodity March 2014」

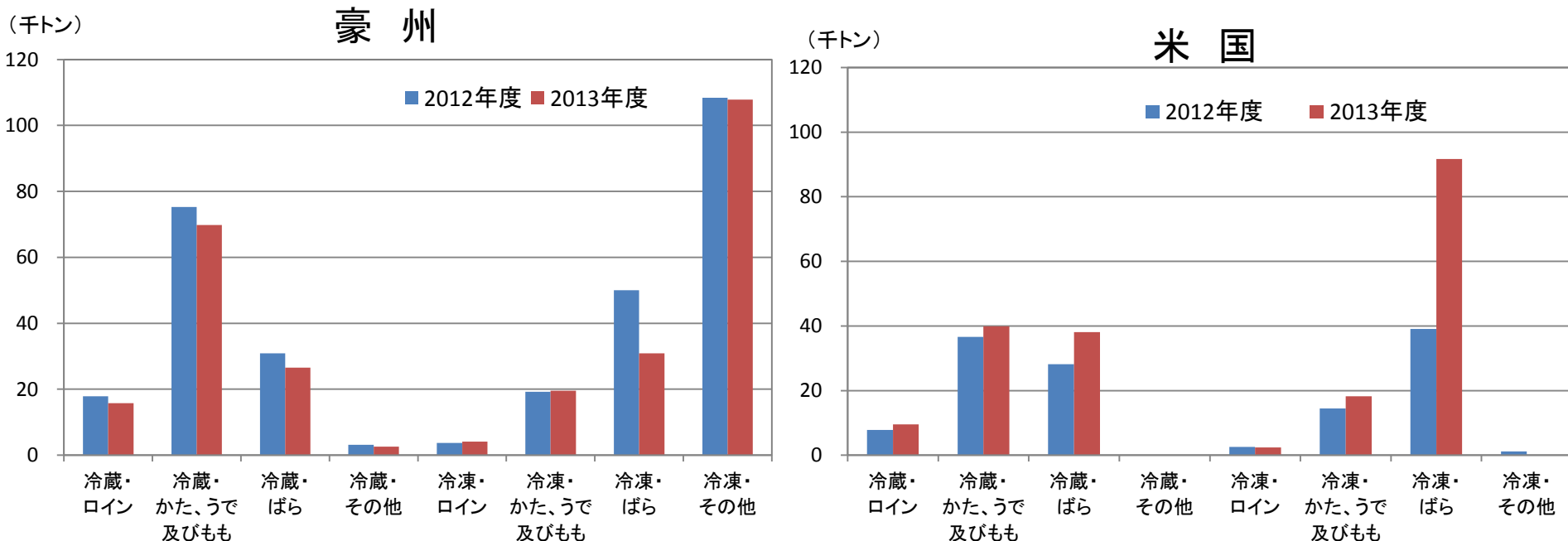
注1：船積重量ベース

注2：2013/14年度以降は予測値

ABARESの牛肉産業見通し – 日本向けの動向

- 2013年度は、米国産との競合から冷凍ばらが大きく減少、一方、加工用牛肉に対する堅調な需要から、冷凍その他は前年並み
- 中期的には、豪州産は横ばいで推移、米国産の増加により、米国が日本の最大の輸入相手先になると見込む

日本の部位別牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」をもとに機構集計

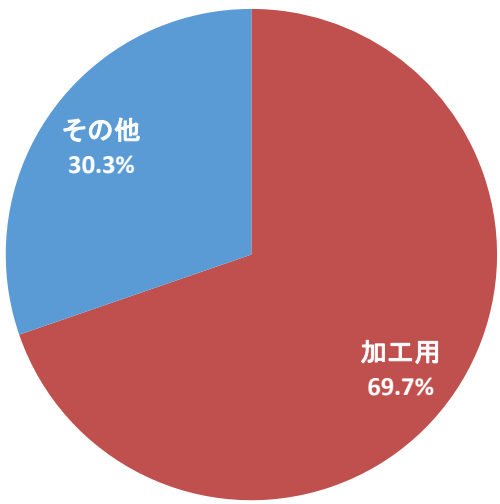
注1：年度は4月～翌3月

注2：HSコード0201、0202

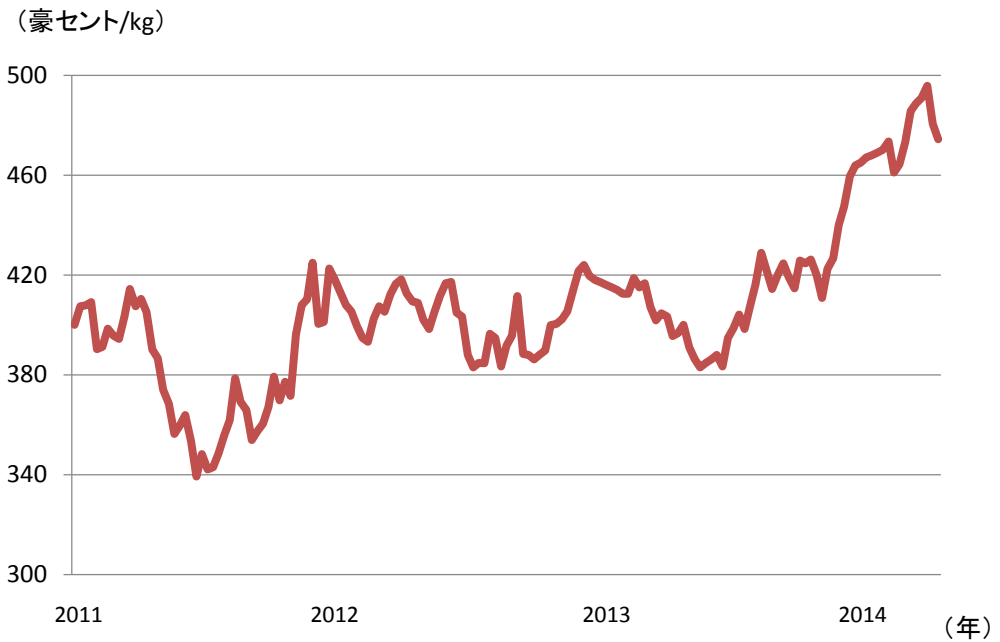
ABARESの牛肉産業見通し – 米国向けの動向

- 米国国内の経産牛のと畜頭数減少から、豪州産加工用牛肉への引合いが強まり、2013年後半以降、米国向け牛肉輸出は好調に推移
- 米国国内の牛肉価格の高騰から、豪州の米国向け輸出価格も上昇し、他市場向けの輸出に影響
- 中期的にも、米国向けからの強い引き合いは継続する見込み

米国向け牛肉輸出の内訳(2013年)



米国向け加工用牛肉の輸出価格の推移

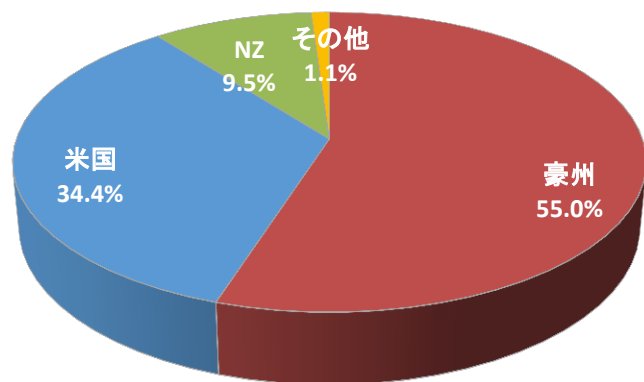


資料：MLA
注：加工用牛肉価格は90CLのFAS価格（船側渡し条件）

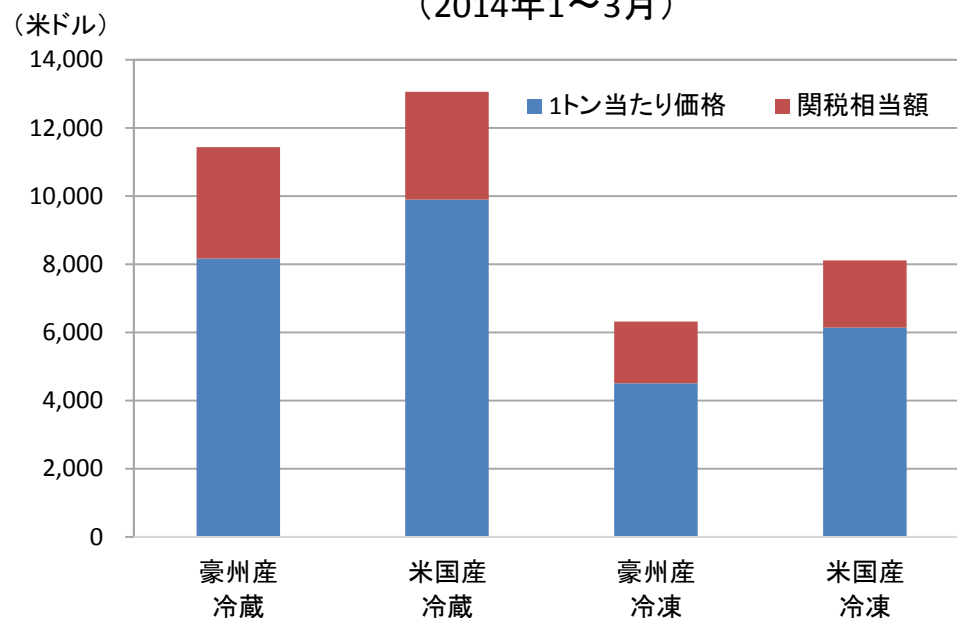
ABARESの牛肉産業見通し – 韓国向けの動向

- 韓国における豪州の輸入シェアは55%と、最大の輸入相手先
- 韓米FTA(2012年発効)によって、2014年の豪州産と米国産の韓国における関税率の差は8.0%となっているが、米国産の高値により豪州産は価格競争力を維持
- 中期的には、韓国国内の牛肉生産量の減少や、韓豪FTA発効により、韓国国内での豪州の輸入シェアは維持される見込み

韓国の牛肉輸入における各国のシェア
(2013年)



韓国国内での豪州産及び米国産の価格の比較
(2014年1～3月)



資料 : G T I 「Global Trade Atlas」

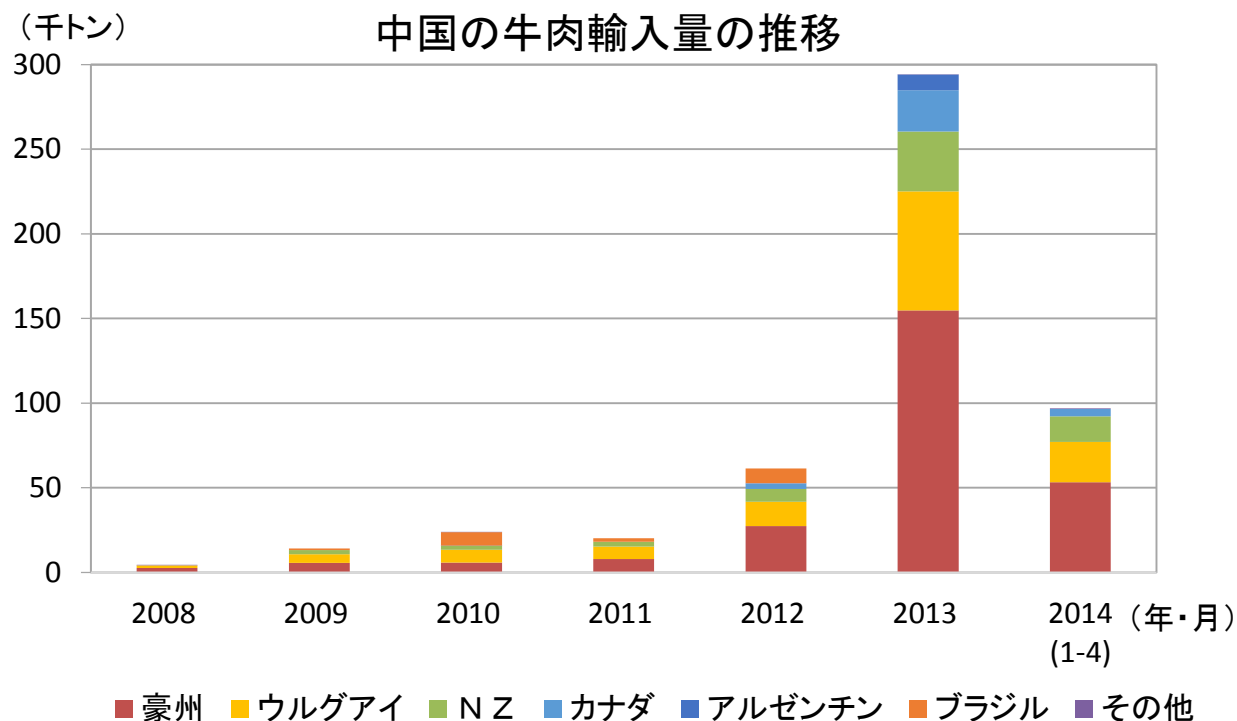
注 1 : H Sコード0201、0202

注 2 : 1トン当たり価格はCIF単価

注 3 : 関税相当額は1トン当たり価格に対し、豪州産が40%、米国産が32.0%を乗じたもの

ABARESの牛肉産業見通し – 中国向けの動向

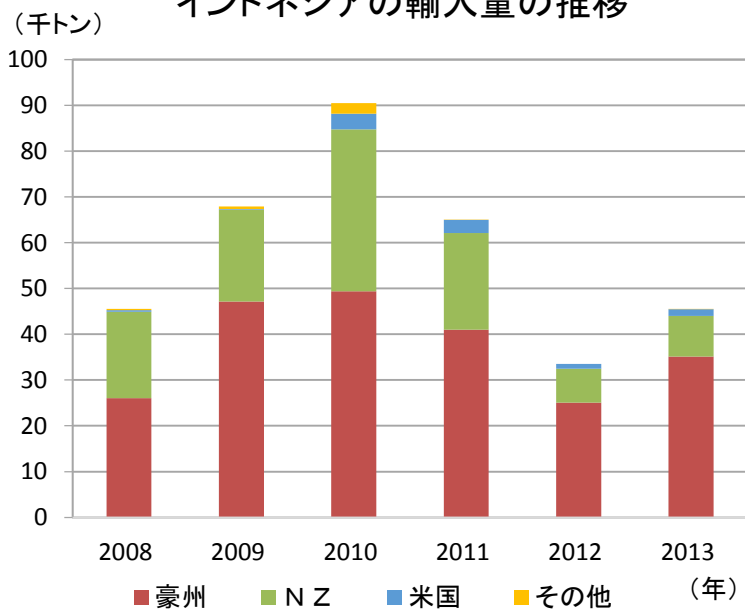
- 豪州産は2012年以降、中国市場で最大のシェア(2013年:53%)
- 中期的にも、中国では国内の牛肉生産の伸びを上回る牛肉消費拡大が見込まれ、豪州産も増加が見込まれる
- ただし、インド産水牛肉の輸入解禁、米国産及びブラジル産の輸入再開の動きから、今後は中国国内で他国産との競合が強まるとみられ、豪州産の輸出の伸びは鈍化する見込み



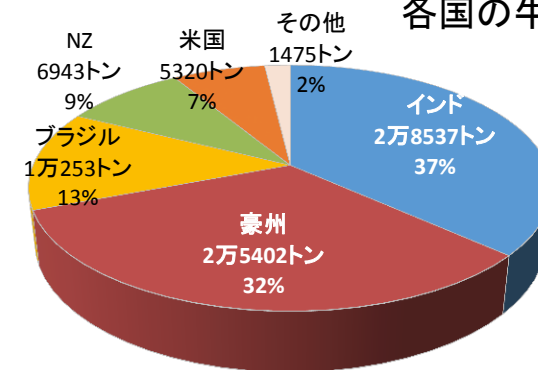
ABARESの牛肉産業見通し – 東南アジアなどの動向

- 東南アジアで最大の輸出先はインドネシア
- 国内の飼養頭数減少及び牛肉価格高騰の対策として、2013年9月以降、牛肉輸入量を拡大、2013年は前年度比35.8%増に
- 中期的にも豪州のインドネシア向けは堅調に推移し、東南アジア向けの伸びの大半がインドネシア向けの増加によるものと予測
- 東南アジアの他の主要輸出先では、価格の安いインド産水牛肉と競合

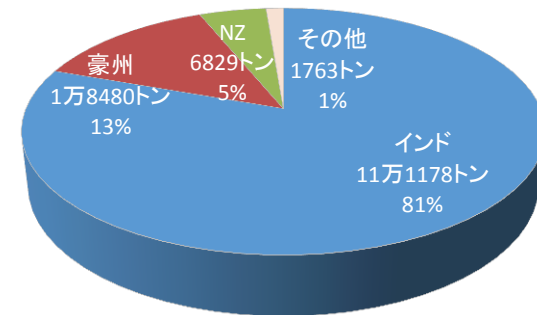
インドネシアの輸入量の推移



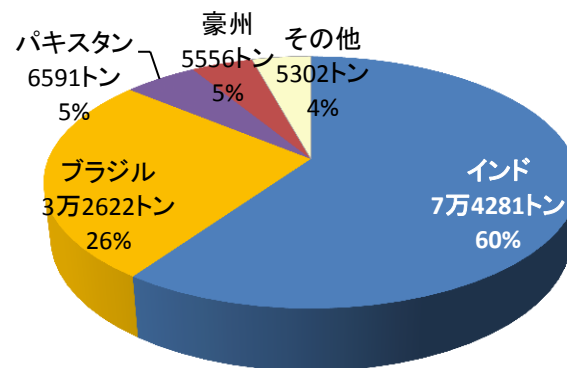
各国の牛肉輸入シェア



フィリピン(2013年)



マレーシア(2013年)



サウジアラビア(2012年)

資料：G T I 「Global Trade Atlas」

注：HSコード0201、0202

ABARESの牛肉産業見通し – 6月における見通し

- 2014年5月時点まで、QLD州やNSW州北部の干ばつは依然厳しい状況が継続
- 牛と畜頭数及び牛肉生産量、牛肉輸出量の予測はいずれも上方修正
- 国別輸出量では、米国からの強い引き合いを反映し、米国向けが大きく上方修正され、日本や韓国向けも増加

牛肉産業の見通し(2014年6月公表の改訂版)

	2012/13年度	2013/14年度 (予測)	2014/15年度 (予測)	前年度比 (増減率)
牛と畜頭数 (千頭)	8,457	9,580 (9,175)	9,000 (8,700)	▲ 6.1% (▲ 5.2%)
牛肉生産量 (千トン)	2,115	2,480 (2,365)	2,380 (2,250)	▲ 4.0% (▲ 4.9%)
牛肉輸出量 (トン)	1,013,875	1,188,000 (1,115,000)	1,120,000 (1,040,000)	▲ 5.7% (▲ 6.7%)
日本向け (トン)	298,838	282,000 (280,000)	270,000 (266,000)	▲ 4.3% (▲ 5.0%)
米国向け (トン)	206,569	265,000 (230,000)	270,000 (240,000)	1.9% (4.3%)
中国向け (トン)	92,279	162,000 (165,000)	166,000 (175,000)	2.5% (6.1%)
韓国向け (トン)	137,695	155,000 (150,000)	158,000 (155,000)	1.9% (3.3%)
他市場向け (トン)	278,494	324,000 (290,000)	256,000 (204,000)	▲ 21.0% (▲ 29.7%)
家畜市場取引価格 (豪セント/kg)	297	294 (290)	320 (325)	8.8% (12.1%)

資料：ABARES「Agricultural Commodity June 2014」

注1：()内の数字は3月時点での見通し

注2：家畜市場取引価格は名目価格

乳製品の需給見通し

豪州の酪農・乳業の概要

- 1頭当たり乳量は日本の3分の2、生乳生産量は日本の1.2倍
- 生乳生産量のうち輸出仕向け割合は40%

区 分	豪 州	(日本との比較)	日 本
酪農家戸数	6398戸	(3分の1)	1万9400戸
乳用経産牛飼養頭数	170万7000頭	(1.8倍)	92万3400頭
飼養品種	ホルスタイン(65～70%)、ジャージー、 交雑(ジャージー×ホルスタイン)等		ホルスタイン、 ジャージー等
飼養形態	放牧 (通常の気象条件下で栄養要求量の 70～75%を放牧に頼る)		舎飼い
1頭当たり乳量	5390リットル	(3分の2)	8154キログラム
生乳生産量	920万キロリットル	(1.2倍)	744万7000トン
輸入量	14万5091トン 注3	(0.03倍)	419万1000トン
輸出量	62万4100トン 注4 (生乳生産量のうち輸出仕向け割合は40%)	(69倍)	9000トン
消費量	552万キロリットル(生乳換算ベース)	(0.5倍)	1172万トン
乳製品の1人当たり年間消費量 (生乳換算ベース)	299キログラム	(3.3倍)	89.5キログラム

資料：Dairy Australia、農林水産省「畜産統計」「牛乳乳製品統計」「食料需給表」

注1：日本の酪農家戸数及び乳用経産牛飼養頭数は2013年2月1日現在、生乳生産量は平成25年度、その他は平成24年度、ただし1人当たり年間消費量は概算値

注2：豪州の酪農家戸数及び乳用経産牛飼養頭数は2013年6月末時点、1頭当たり乳量等は2012/13年度（概算値）、

豪州の消費量は「生乳生産量×（100－生乳の輸出仕向け割合）／100」で算出

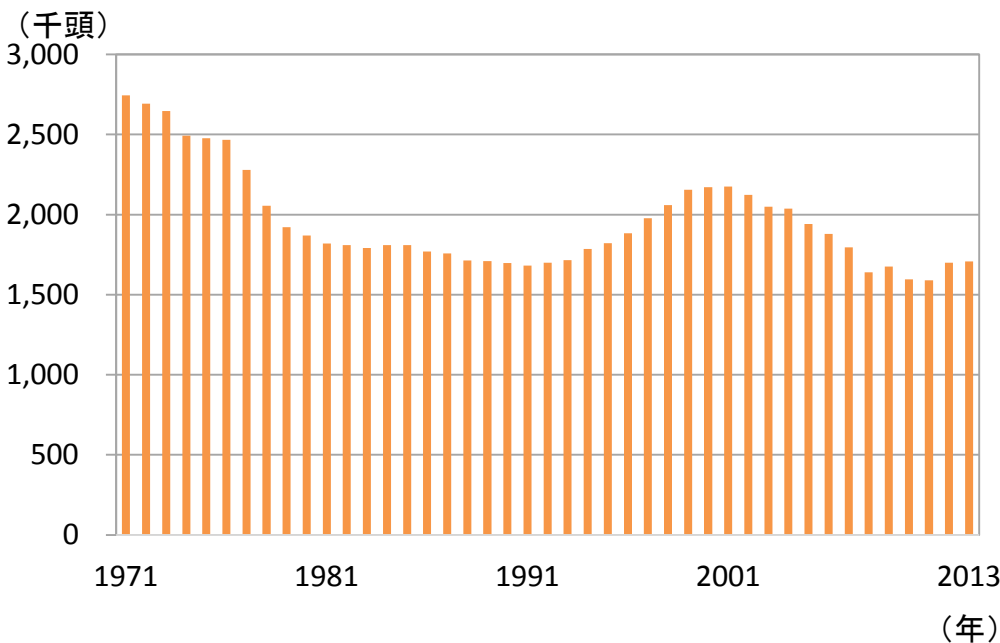
注3：粉乳類、コンデンスミルク、生乳、クリーム、ヨーグルト、バター及びバターオイル、チーズ、カゼイン、ラクトースの合計

注4：チーズ、粉乳類、バター及びバターオイル、生乳、ホエイ製品の合計

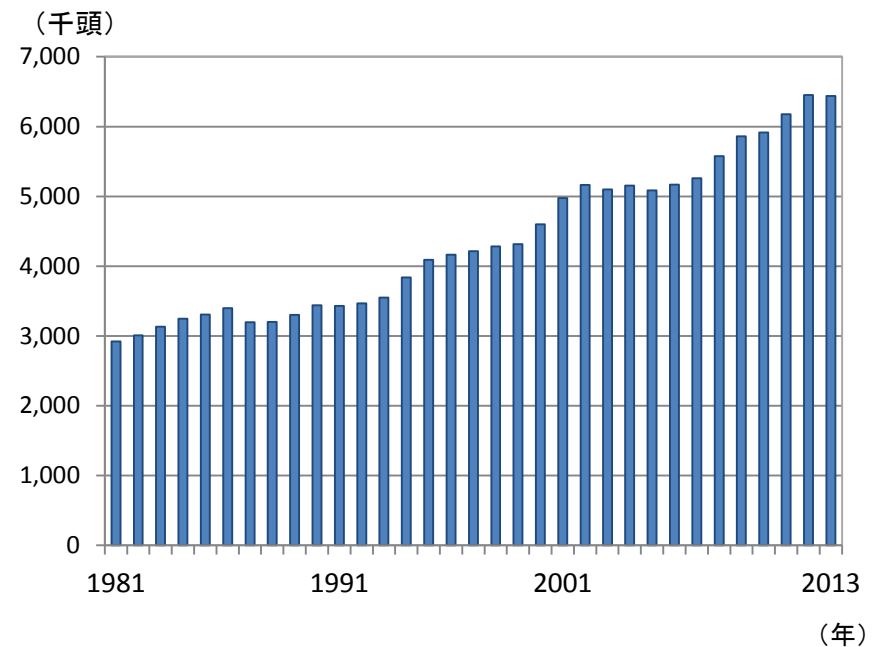
近年の生乳生産を巡る状況 - 乳用経産牛飼養頭数の推移

- 乳用経産牛飼養頭数は、1990年まで減少傾向で推移した後、好調な酪農市況を反映して1990年台に増加したものの、2000年以降は干ばつの影響により再び減少傾向
- 飼養環境の改善から、2011年からは増加傾向で推移

乳用経産牛の飼養頭数の推移



(参考)NZにおける乳用牛の飼養頭数の推移



資料：ABARES「Agricultural commodity statistics 2013」

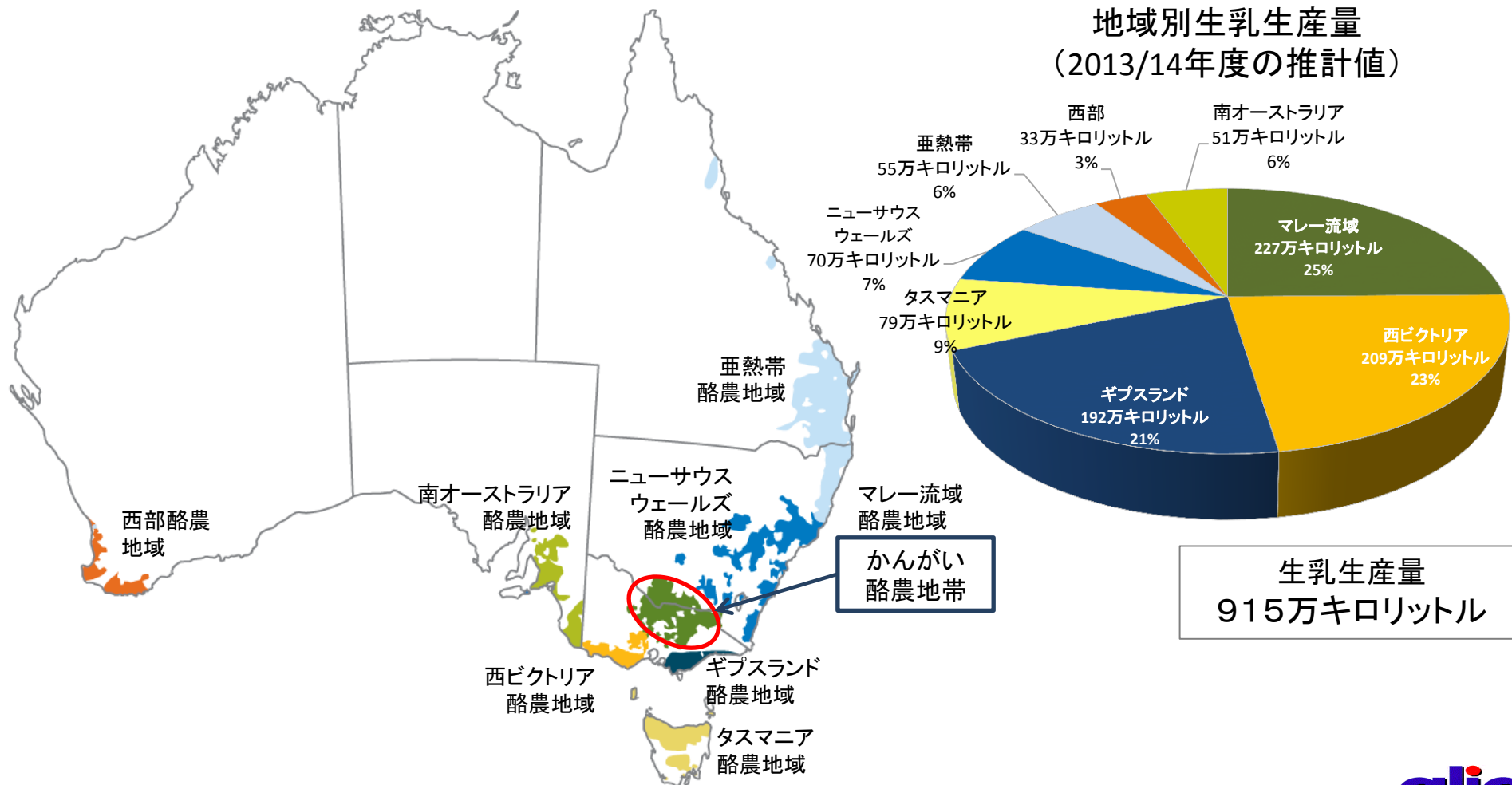
注：各年6月末時点

資料：StatisticsNZ

注：各年6月末時点

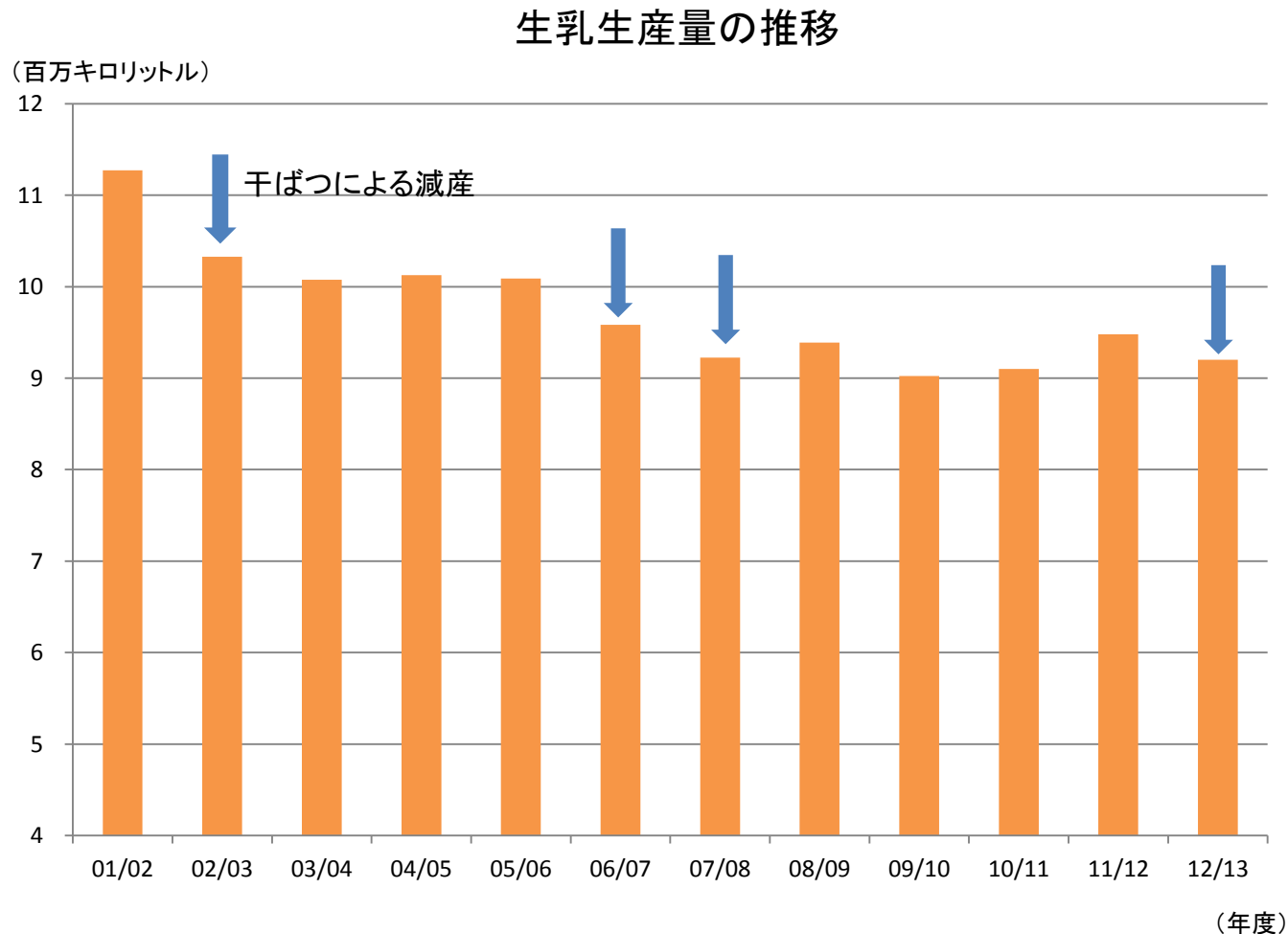
近年の生乳生産を巡る状況 – 主な生産地域と水条件

- VIC州で7割の生乳を生産、輸出仕向けが多いのはVIC州（5割強）とTAS州（7割弱）
- VIC州北部・NSW南部ではかんがい酪農、他の酪農地帯の大半は天水に依存



近年の生乳生産を巡る状況 – 生乳生産量の推移

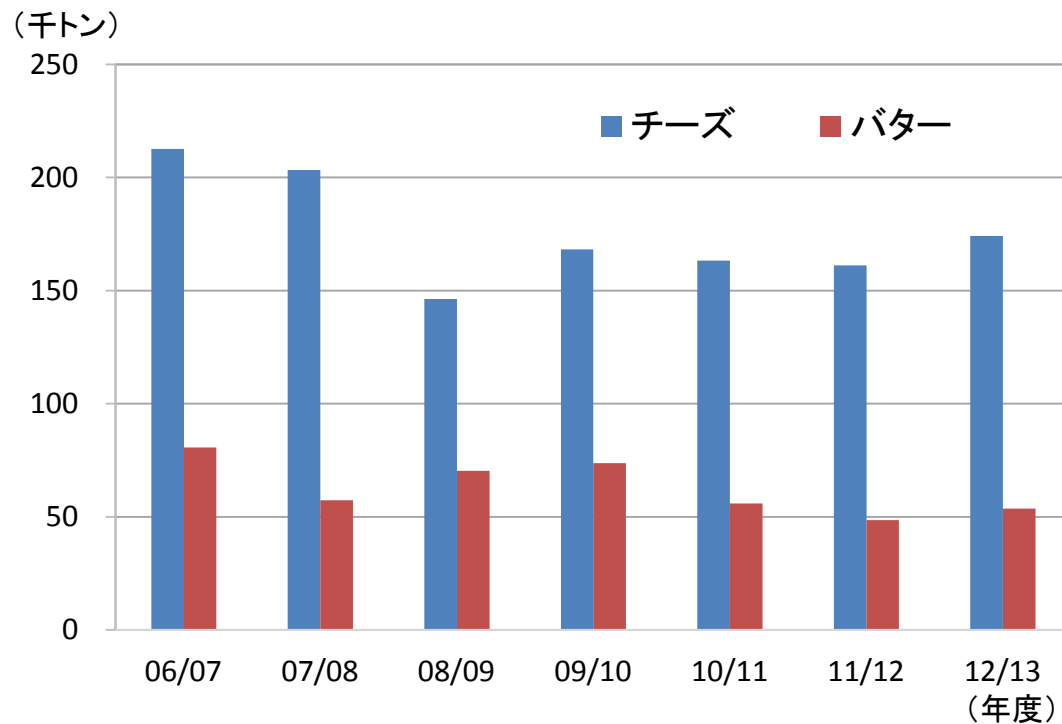
- 干ばつの影響を受け、近年、生乳生産量は減少傾向で推移
- 乾燥気候による放牧環境の悪化や乾乳期への早期移行などから、2012/13年度の生乳生産量は前年度比3.0%の減少



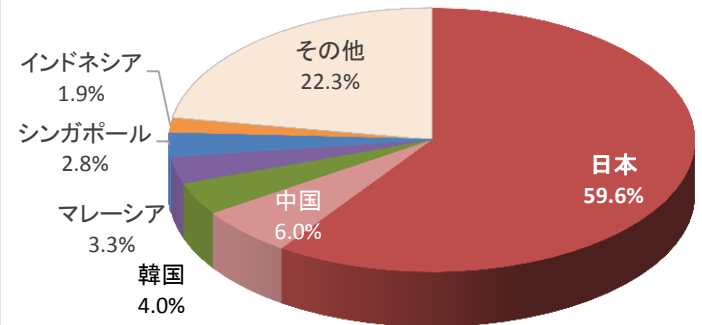
近年の生乳生産を巡る状況 - チーズ・バターの輸出動向

- ・ 収益性の高いチーズの輸出量は近年、ほぼ横ばいで推移
- ・ バターは全粉乳への生乳仕向けの減少から、2012/13年度は3年ぶりに増加
- ・ いずれもアジアが主要輸出先で、チーズは日本が最大の輸出相手先

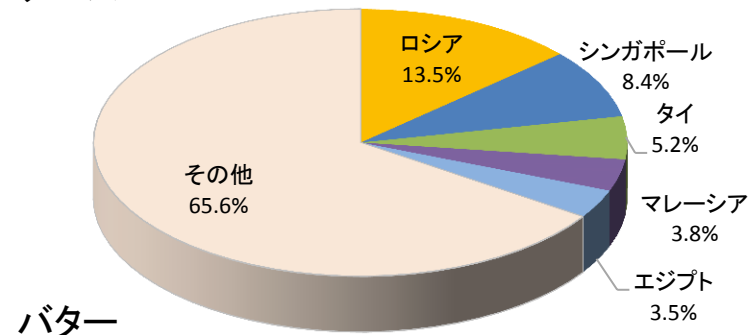
チーズ及びバターの輸出量の推移



国別輸出割合(2012/13年度)



チーズ



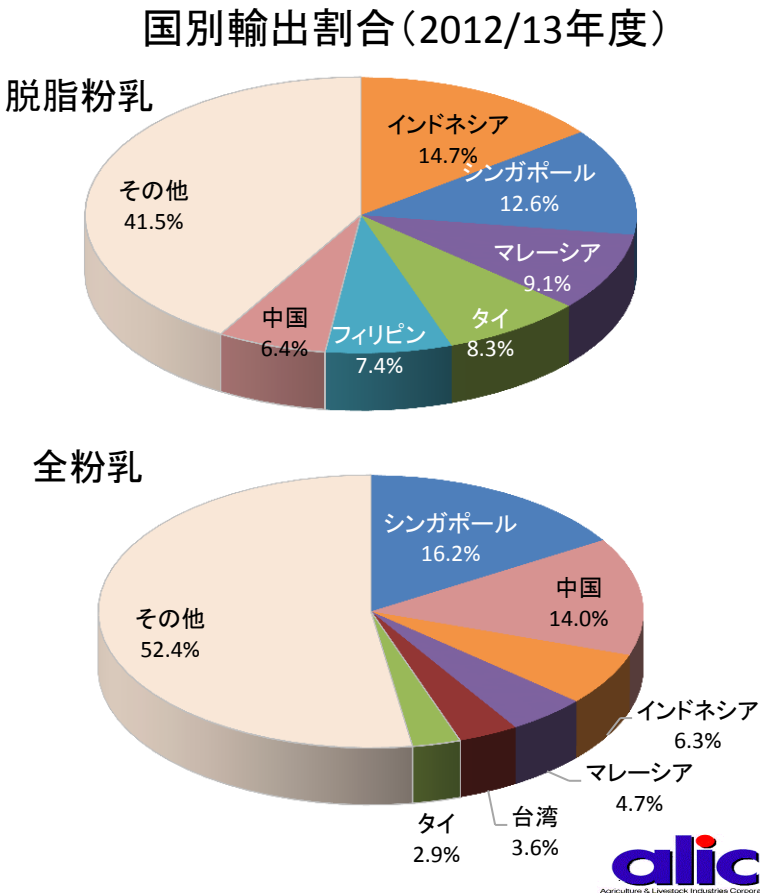
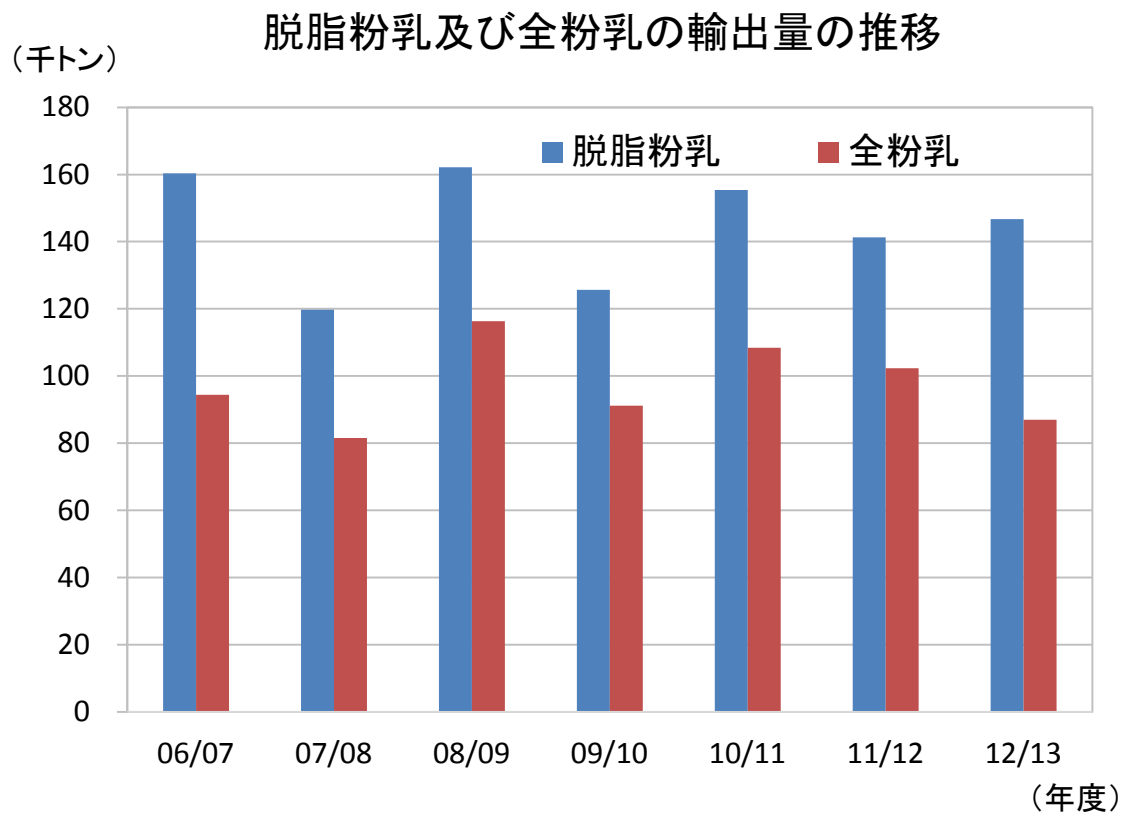
バター

資料：ABARES「Agricultural commodity statistics 2013」

注：バターにはバターオイルを含む

近年の生乳生産を巡る状況 - 粉乳類の輸出動向

- いずれも生乳生産量の増減に伴い、変動
- 2012/13年度は、年度当初に全粉乳が脱脂粉乳に比べて安価に推移していたことから、脱脂粉乳やバターを優先
- 東南アジアが主要輸出先



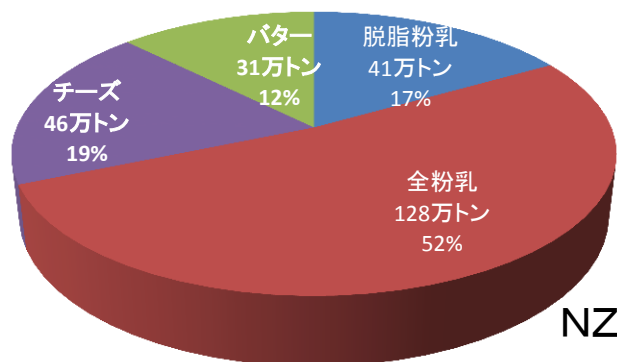
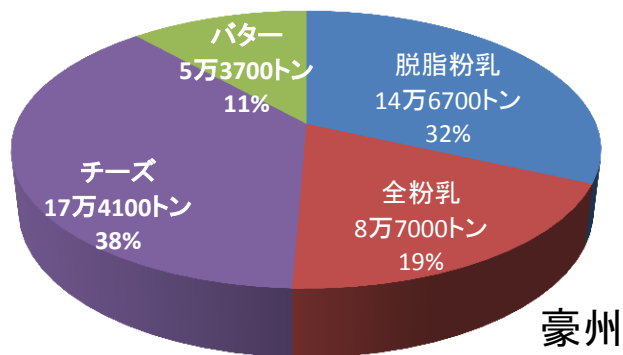
資料 : ABARES 「Agricultural commodity statistics 2013」

近年の生乳生産を巡る状況 – NZとの輸出動向の比較

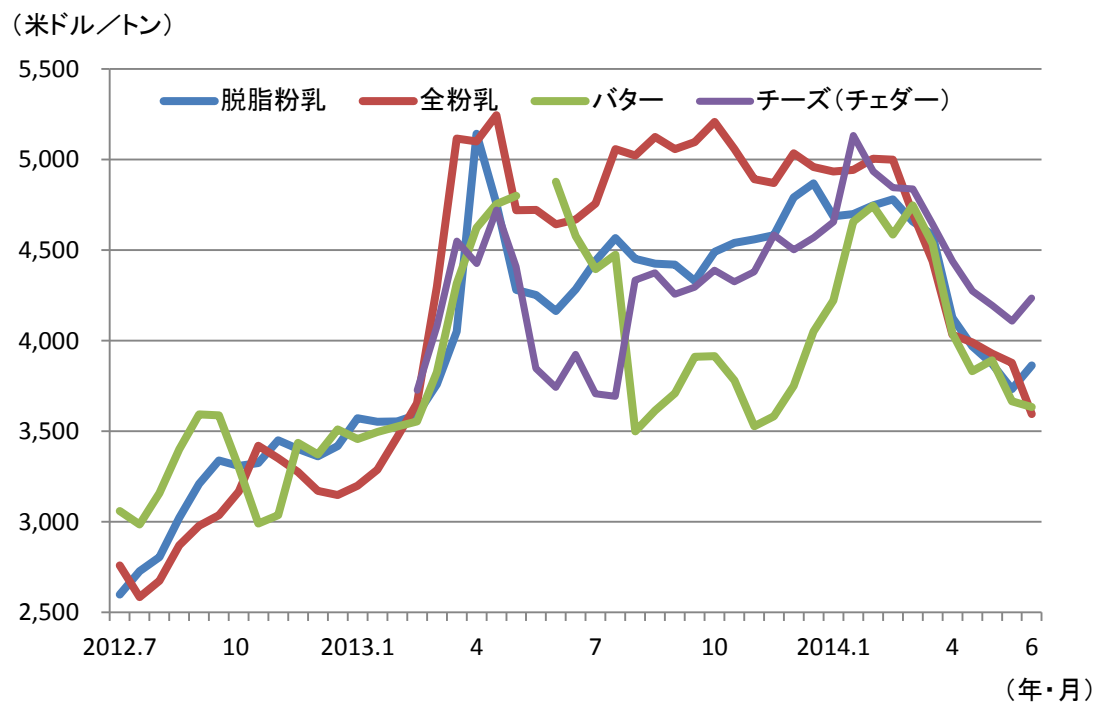
- NZは中国-NZFTAにより、近年、全粉乳の中国向け輸出を伸ばし、主要乳製品輸出に占める全粉乳の割合は、豪州が2割、NZは5割以上
- NZは2013年、中国の高まる需要を背景とした全粉乳価格高騰の恩恵を大いに受けた

中国の粉乳類の基本税率は10.0%
2014年現在、中国-NZFTAの協定税率は5.0%

主要乳製品の輸出構成(2012/13年度)



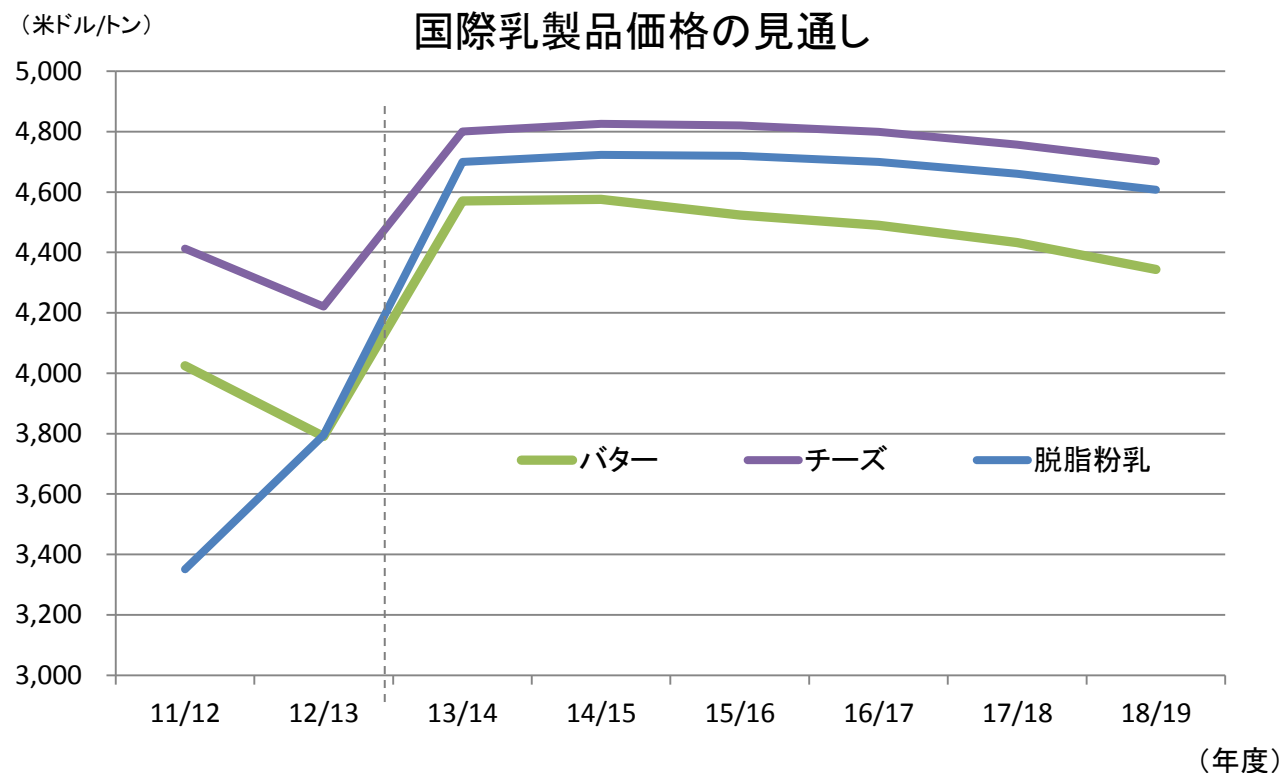
GDTにおける乳製品価格の推移



資料：(左上) ABARES「Agricultural commodity statistics 2013」、(左下) StatisticsNZをもとに機構集計 (NZ乳製品輸出量)
(右上) GDT (フォンテラ社主催の電子オークション)、
注：HSコード040221、040229

ABARESの生乳・乳製品見通し – 国際価格

- 2014/15年度の乳製品の国際価格は、中国や東南アジアなどの堅調な需要から、わずかに上昇
- 中期的には、世界の主要な生乳生産国及び乳製品輸出国の増産を受け、下落するものの、アジアや中東などの粉乳類を中心とした需要が堅調なことから、いずれの品目も高止まりで推移



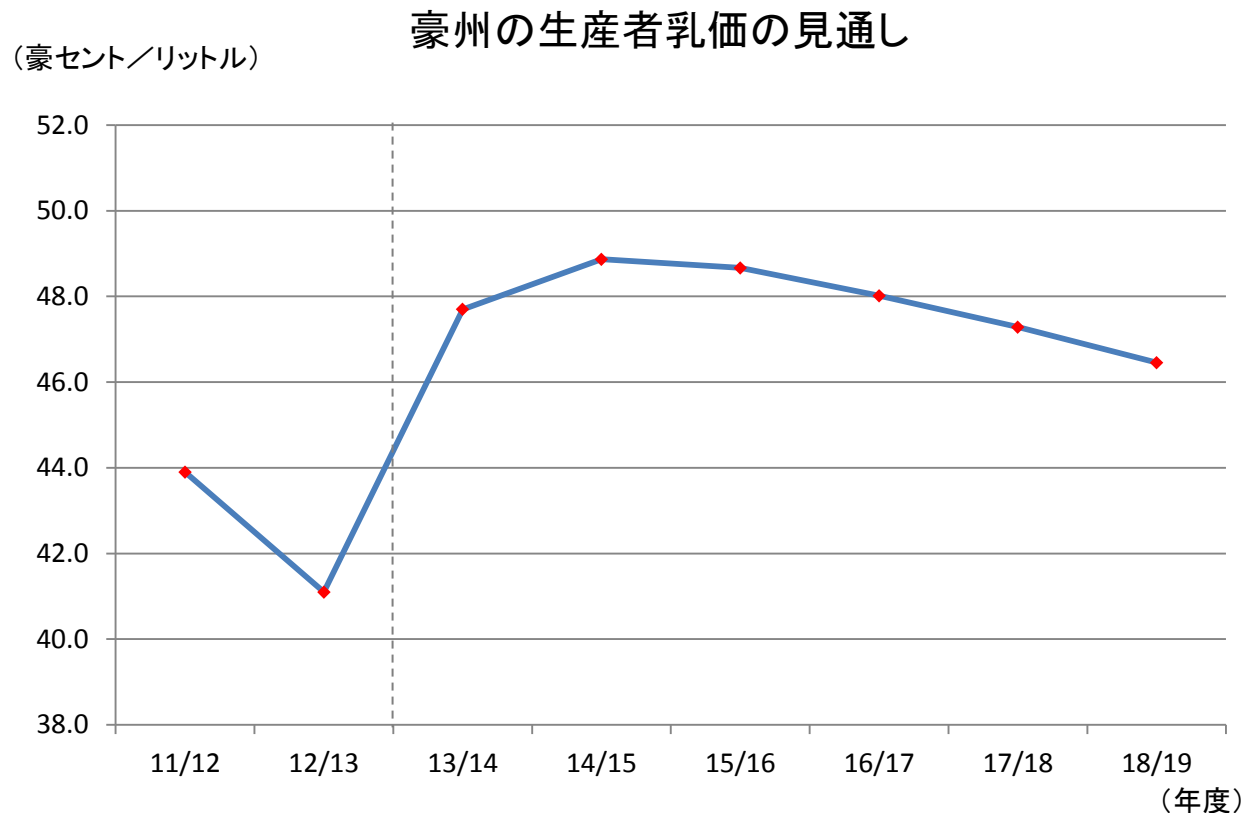
資料：ABARES「Agricultural Commodity March 2014」

注1：2013/14年度の為替で補正した数値

注2：2013/14年度以降は予測値

ABARESの生乳・乳製品見通し – 生産者乳価

- 2014/15年度の豪州の生産者乳価は、国際価格の上昇や豪ドル為替の下落を反映し、上昇
- 2014/15年度以降下落が見込まれるものの、高止まりで推移



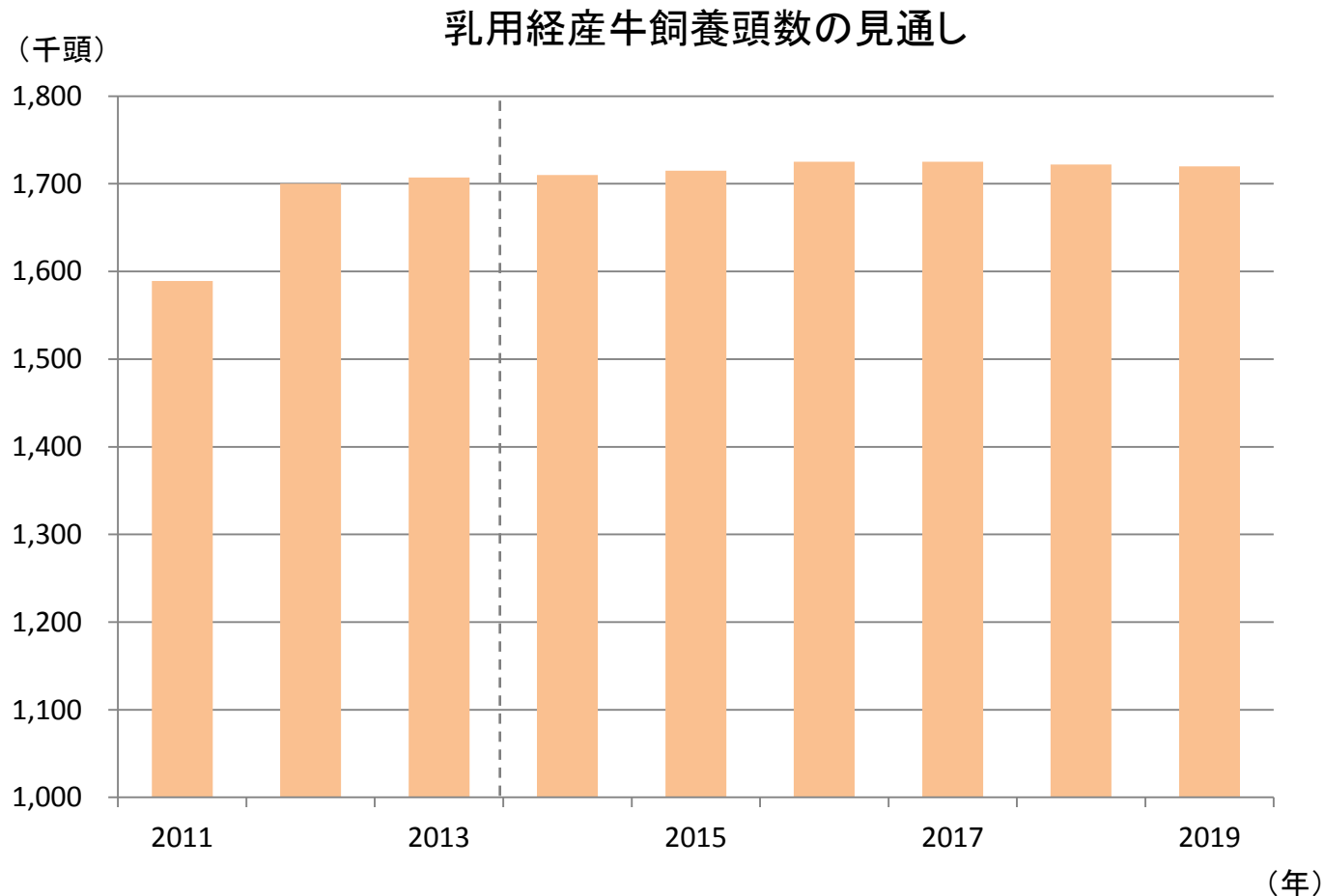
資料：ABARES「Agricultural Commodity March 2014」

注1：2013/14年度の為替で補正した数値

注2：2013/14年度以降、予測値

ABARESの生乳・乳製品見通し – 乳用経産牛飼養頭数

- 2012年後半以降、東部地域の広範囲を見舞った高温乾燥から、乳用経産牛の飼養頭数の伸びは減速
- 2016年以降はほぼ横ばいで推移



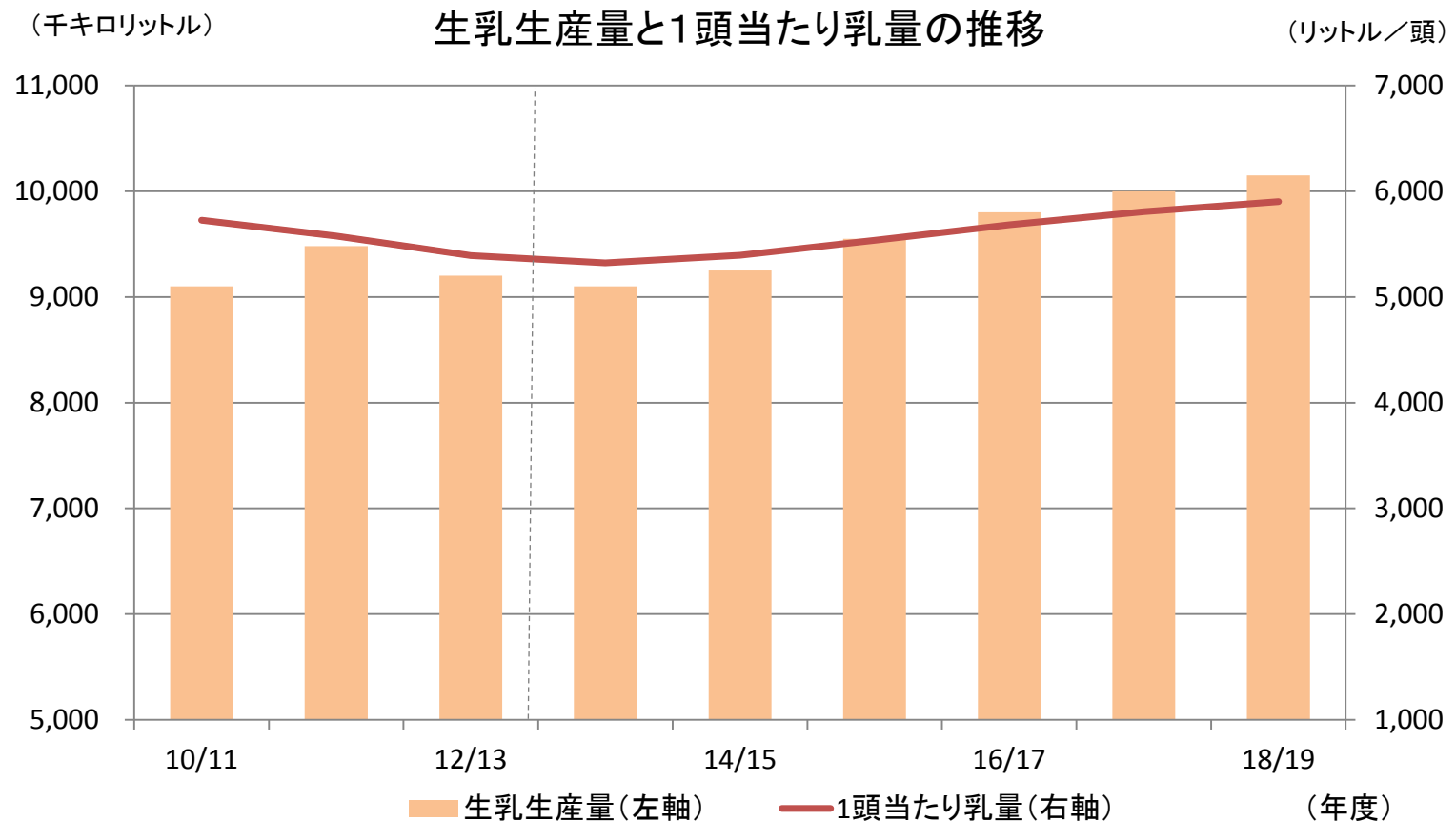
資料：ABARES「Agricultural Commodity March 2014」

注1：各年6月末時点

注2：2014年以降、予測値

ABARESの生乳・乳製品見通し – 生乳生産量

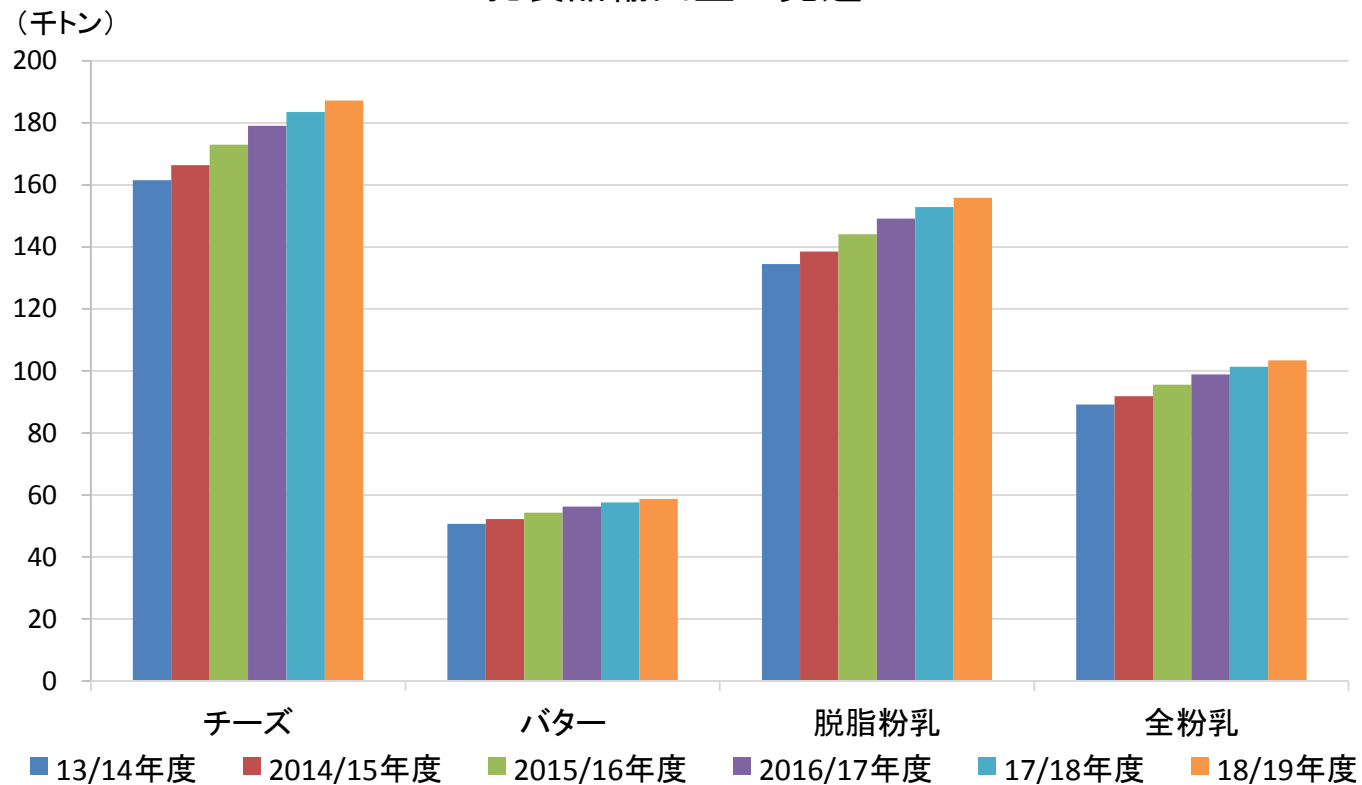
- 2014/15年度は、気象条件の改善や乳価の上昇によってVIC州やNSW州を中心に、生乳生産量が増加
- 中期的には1頭当たり乳量の向上により、生乳生産量は1000万キロリットルに達する見通し



ABARESの生乳・乳製品見通し – 乳製品輸出量

- 生乳生産の増加に伴い、チーズ、バター、粉乳類のいずれも輸出量は増加
- 日本の需要の伸びから、豪州は日本のチーズ輸入の最大のシェアを維持
- 減少傾向にあった全粉乳の輸出量は、高止まりする国際価格を受けて、今後、増加する見込み

乳製品輸出量の見通し



ABARESの生乳・乳製品見通し – 6月における見通し

- 2014年3月以降の南部での降雨や、国際乳製品価格高騰を背景とする乳価の上昇を受けて、生乳生産量は2013年12月以降、前年同月を上回って推移
- ABARESの2014年6月時点における2014/15年度の生乳生産量見通しは、930万キロリットルと上方修正

酪農産業の見通し(2014年6月時点の改訂版)

	2012/13年度	2013/14年度 (予測)	2014/15年度 (予測)	前年度比 (増減率)
乳用経産牛飼養頭数 (千頭)	1,688 (1,707)	1,705 (1,710)	1,708 (1,715)	0.2% (0.3%)
1頭当たり乳量 (リットル／頭)	5,450 (5,577)	5,355 (5,390)	5,445 (5,322)	1.7% (▲ 1.3%)
生乳生産量 (千キロリットル)	9,201 (9,480)	9,130 (9,201)	9,300 (9,100)	1.9% (▲ 1.1%)

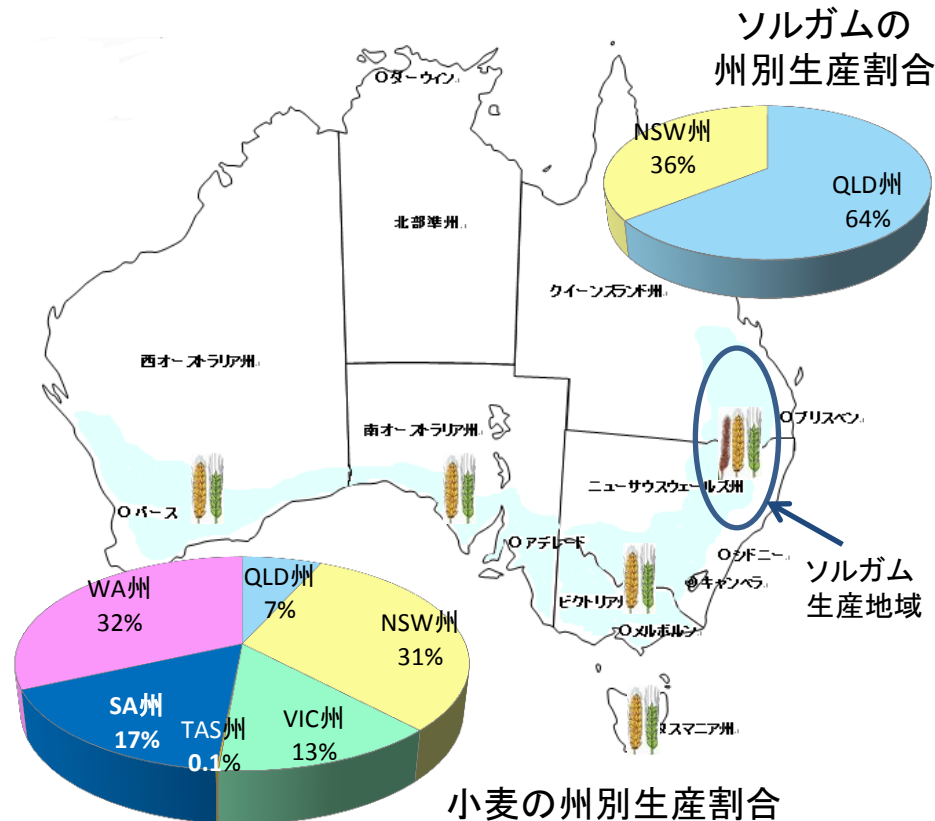
資料：ABARES「Agricultural Commodity June 2014」

注：() 内の数字は3月時点での見通し

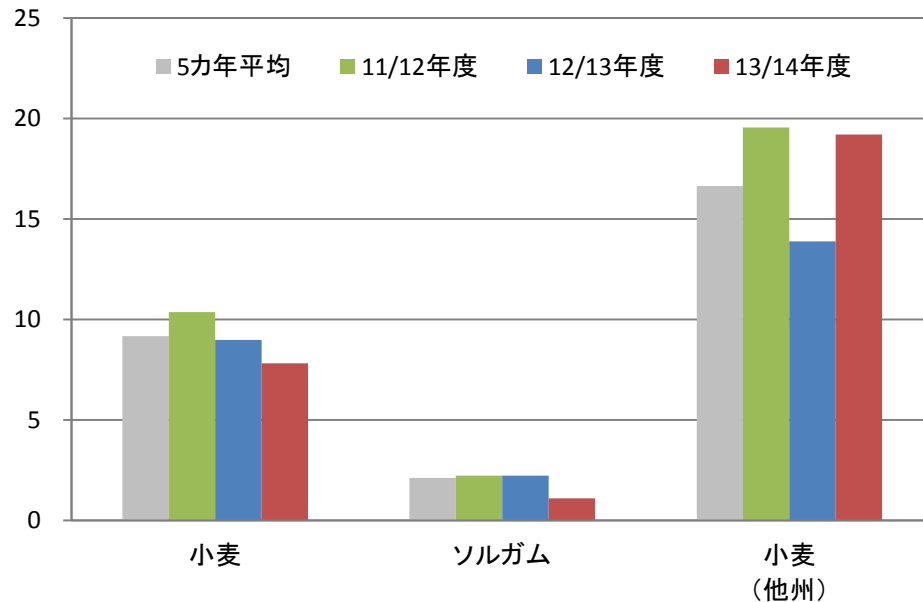
穀物の需給見通し

近年の穀物生産を巡る状況 - 2013/14年度の穀物生産

- QLD州やNSW州では、干ばつの影響を受け、2年連続の減産
- 一方、WA州や南部州では、2013/14年度は単収増から、小麦の生産量が記録的な水準



QLD州及びNSW州の穀物生産の推移
(百万トン)



資料 : ABARES 「Australian crop report June 2014」

注 1 : 2013/14年度は推計値

注 2 : 小麦の5カ年平均は2013/14年度までの5年度

ソルガムの5カ年平均は2012/13年度までの5年度

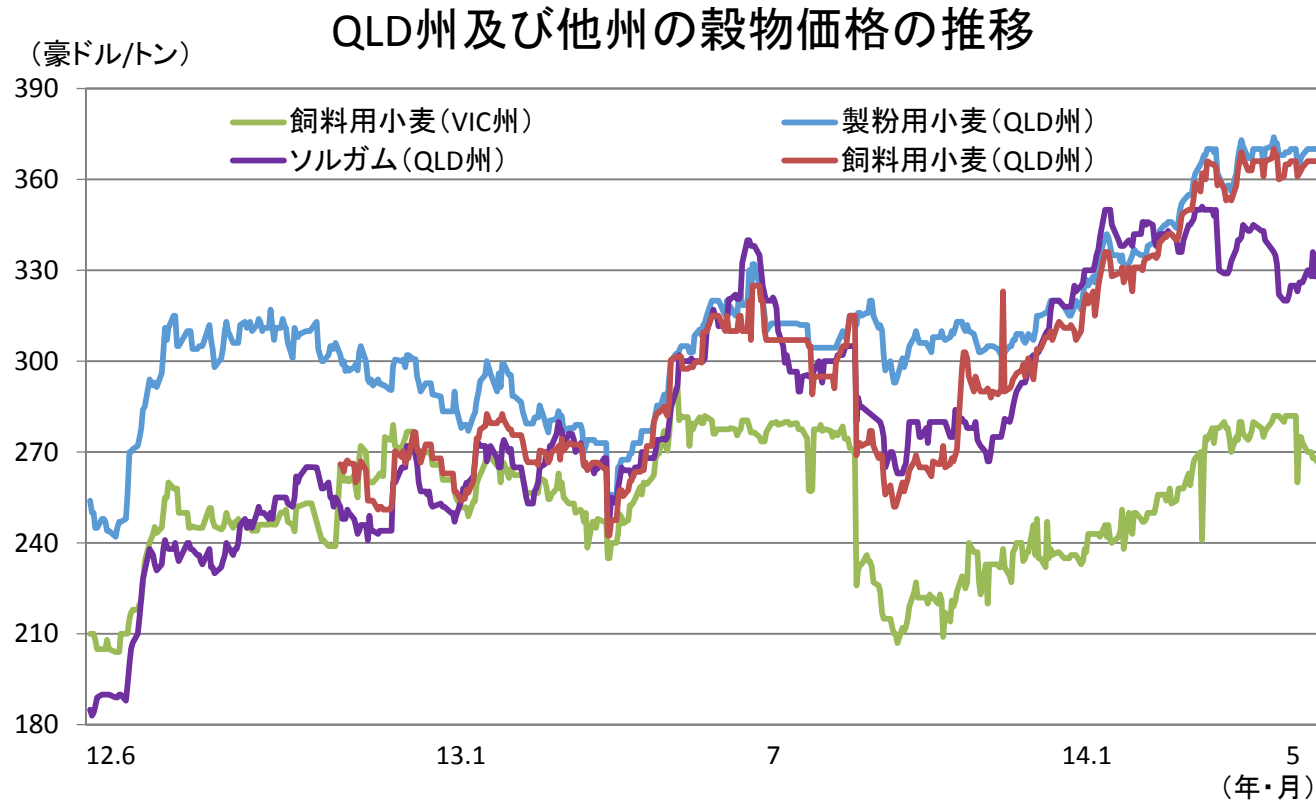
注 3 : 小麦 (他州) は、WA州及びSA州、VIC州、TAS州の合計

資料 : ABARES 「Australian crop report February 2014」

注 : 2012/13年度までの5カ年平均

近年の穀物生産を巡る状況 – 穀物価格の推移

- 減産による需給ひっ迫から、QLD州の飼料用小麦価格は製粉用並みの高水準で推移
- フィードロットでの肉牛生産に影響

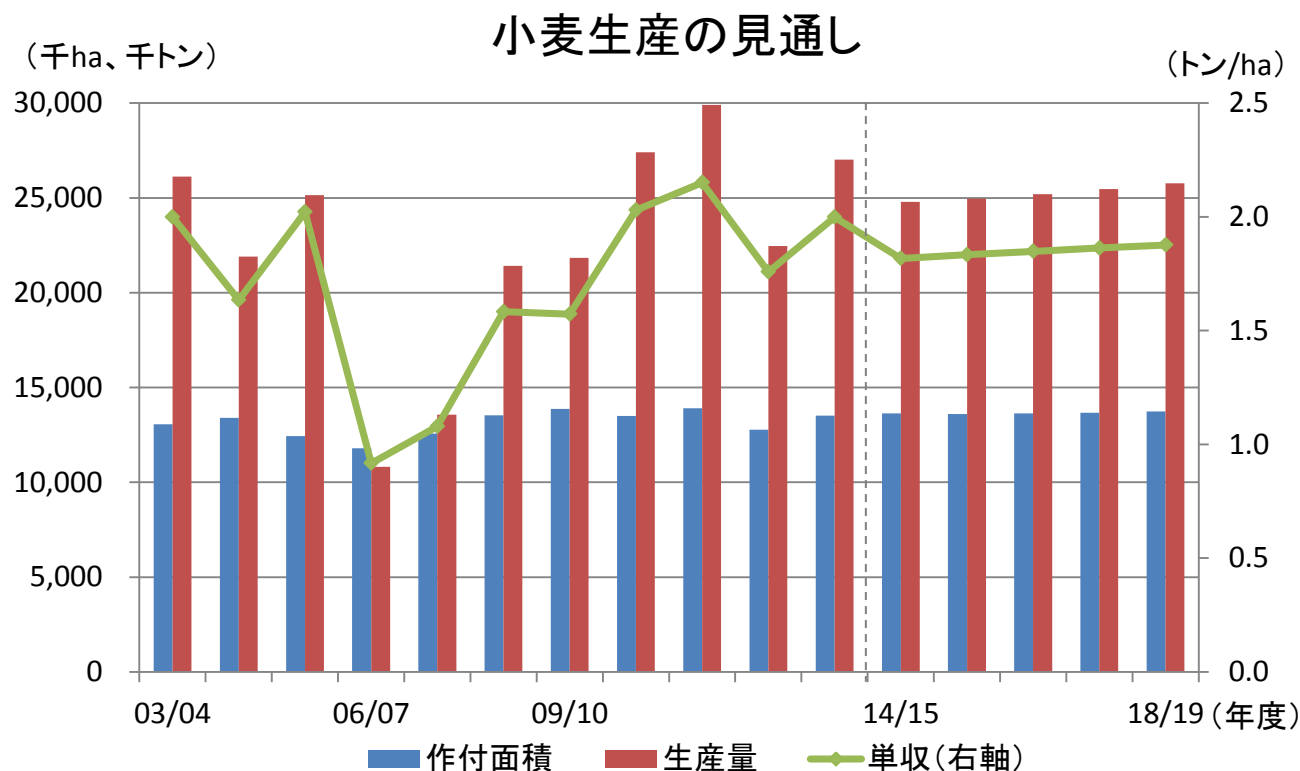


資料：Profarmer

注：ブリスベン港及びVIC州Geelong港における生産者販売価格

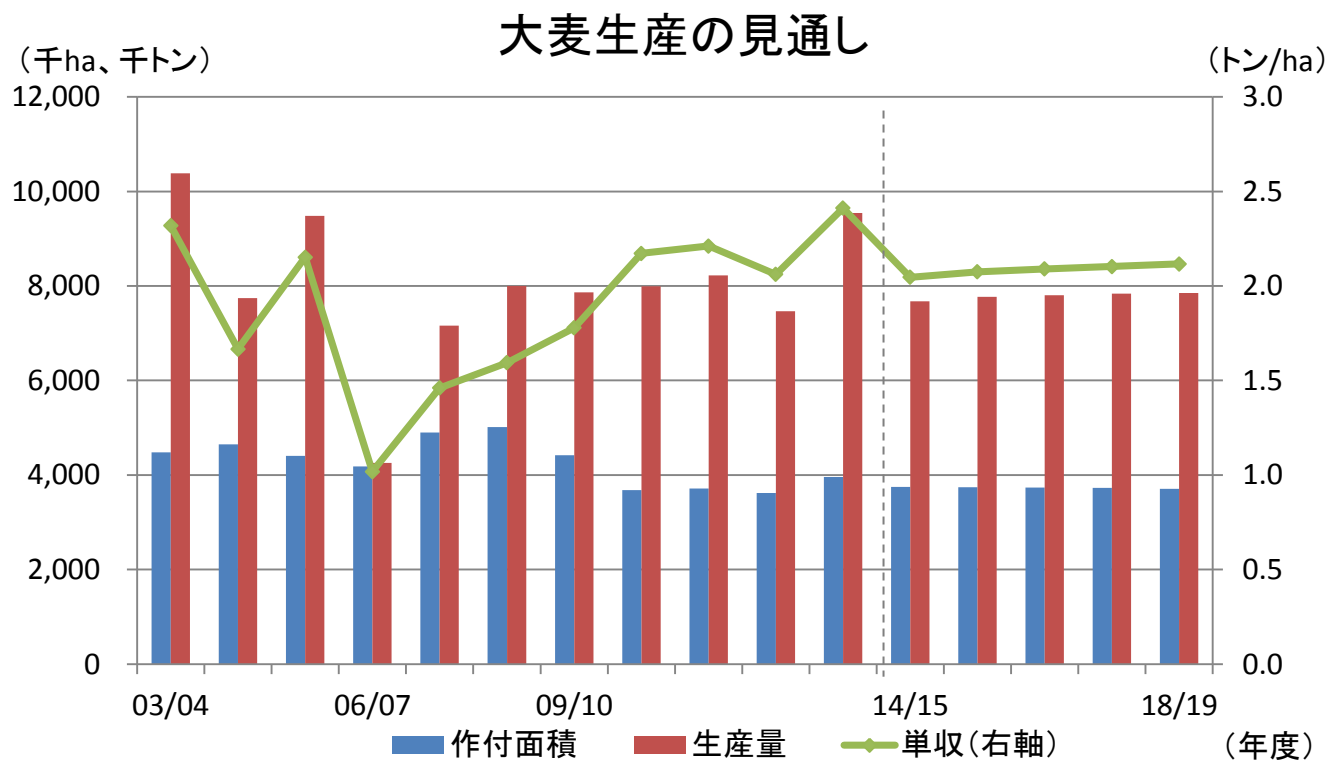
ABARESの穀物生産見通し - 小麦

- 2014/15年度は、南部の良好な天候により、作付面積は前年度を上回るも、単収減から減産見込み
- 州別では、WA州やSA州で前年度の増産の反動から減少し、NSW州やQLD州では気象条件の改善を前提に増加する見込み
- 中期的には、国際価格の動向を受けてカノーラ(菜種)と作付けの競合が強まり、作付面積はほぼ横ばい、生産量は微増で推移



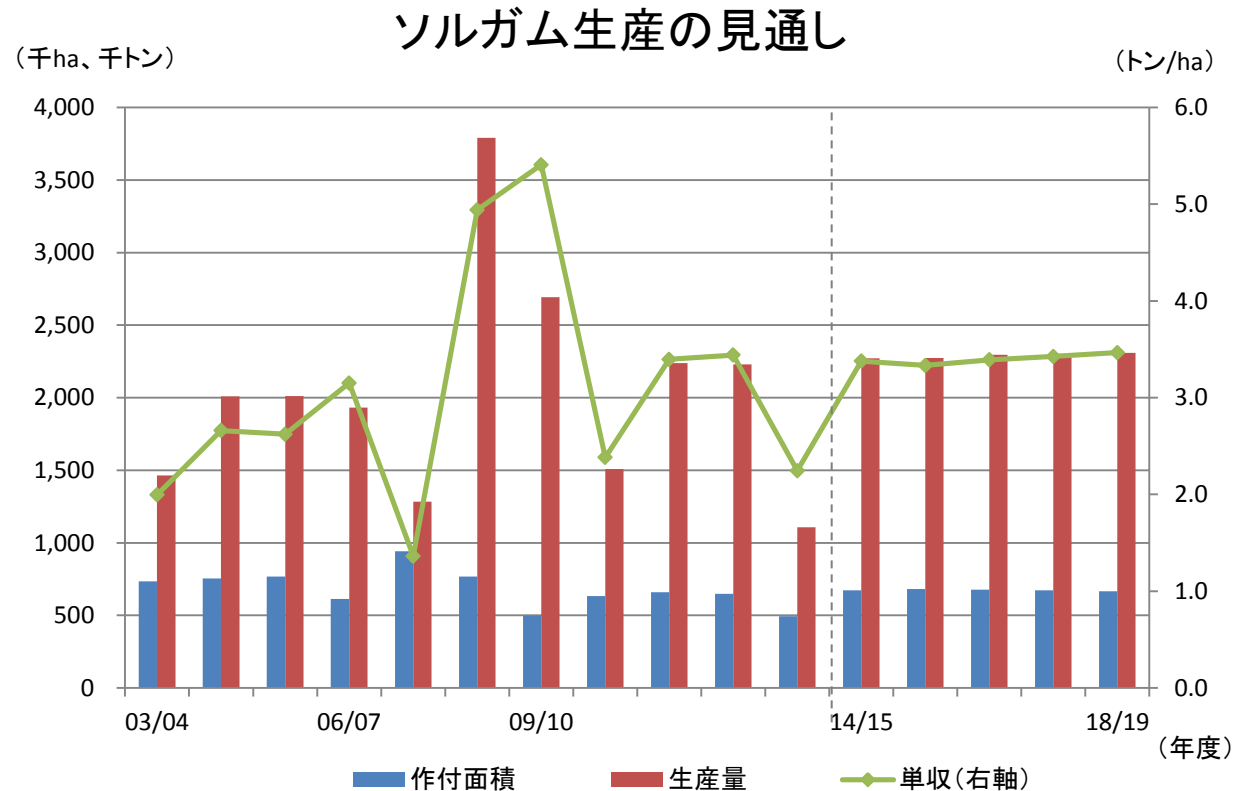
ABARESの穀物生産見通し - 大麦

- 2014/15年度は、小麦やカノーラとの競合から作付面積が減少する上、単収も減少することにより減産見込み
- 中期的には、カノーラとの競合により、作付面積は減少、生産量はほぼ横ばいで推移



ABARESの穀物生産見通し – ソルガム

- 2013/14年度の生産量は110万トン（前年度比50%減）と、1997/98年度以来の最低水準の見込み
- 中期的には、作付面積及び生産量ともに、横ばいで推移する見通し



資料：ABARES「Agricultural Commodity March 2014」、「Australian crop report June 2014」

注1：2012/13年度及び2013/14年度はAustralian crop reportの数値を使用

注2：2013/14年度は推計値、2014/15年度は予測値

- 今後、肉牛生産者が増頭に向かうため、牛肉生産量は減少、肉牛価格は高値に向かう見込み
- 牛肉輸出量は、減少が見込まれるものの、海外市場からの強い引合いは衰えず、中期的に牛肉輸出量は100万トン台の高水準を維持
- 2014/15年度以降の生乳生産量は、気象状況の改善を前提に、増加
- 主要乳製品の輸出はチーズ、バター、粉乳類のいずれも増加、特に、全粉乳へのシフトの動きが強まるとみられる

まとめ

- 米国や韓国の豪州産牛肉への引き合いは当面弱まる気配がなく、中国や東南アジアなど新たな市場の牛肉消費も拡大が予想される
- 豪州産乳製品は、今後、中国からの引き合いが増すとの見方
- 牛肉、乳製品ともに、日本と他市場との競合が強まっていくものと考えられる
- 懸念事項は、2014年中に発生が見込まれるエル・ニーニョ



ご清聴ありがとうございました

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断をお願いします。提供した情報の利用に関連して、
万一、不利益が被る事態が生じたとしても、A L I Cは一切の責任を負いません。